

令和 7 年度（2025 年） 幼児教育科
教育課程シラバス

愛国学園保育専門学校

目 次

教育課程（1・2年生）	1
-------------	---

実務経験のある教員による授業科目一覧：令和7年度	2
--------------------------	---

○1年生

1. 教養科目

日本国憲法	有川 博	3
体育講義	森川 みゆき	4
体育実技	森川 みゆき	5
英語コミュニケーション	甘糟 節子	6
子どもと自然	福田 光弘	8

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと人間関係	竹澤 宏美	9
子どもと環境	石井 久美子	10
子どもと言葉	小林 恵	11
子どもと表現	森川 みゆき	12
子どもと音楽A	山浦、洞庭、山崎、加藤	13
保育内容総論	竹澤 宏美	15
保育内容（人間関係）の指導法	竹澤 宏美	16
保育内容（言葉）の指導法	小林 恵	17

3. 教育の基礎的理解に関する科目

教育原理	森 和宏	18
保育・教職論	小林 恵	19
教育課程論	田口 賢太郎	20

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児理解の理論及び方法・・・・・・・・・・石井 久美子・・21

5. 保育の本質・目的に関する科目

保育原理・・・・・・・・・・森川 みゆき・・22

子ども家庭福祉・・・・・・・・・・石山 直樹・・23

社会的養護Ⅰ・・・・・・・・・・福田 光弘・・24

6. 保育の対象の理解に関する科目

子ども家庭支援の心理学・・・・・・・・・・早川 貴子・・25

子どもの食と栄養・・・・・・・・・・加藤 由美子・・26

7. 保育の内容・方法に関する科目

保育の計画と評価・・・・・・・・・・福田 光弘・・28

保育内容領域（健康）・・・・・・・・・・伊藤 能之・・29

保育内容領域（人間関係）・・・・・・・・・・竹澤 宏美・・30

保育内容領域（環境）・・・・・・・・・・石井 久美子・・31

保育内容領域（言葉）・・・・・・・・・・福田 光弘・・32

保育内容領域（表現）・・・・・・・・・・森川 みゆき・・33

乳児保育Ⅰ・・・・・・・・・・竹澤 宏美・・34

乳児保育Ⅱ・・・・・・・・・・竹澤 宏美・・35

子どもの健康と安全・・・・・・・・・・福田 光弘・・36

障害児保育・・・・・・・・・・小里 直通・・37

8. 教育実践に関する科目

教育実習・・・・・・・・・・森川 みゆき・・39

9. 保育実習

保育実習指導Ⅰ・・・・・・・・・・石井 久美子・・42

○ 2 年生

1. 教養科目

情報機器の操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 遠山 龍一・・ 4 6

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 伊藤 能之・・ 4 8

子どもと音楽B・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山浦 勝雄・・ 4 9

子どもと表現A・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山浦、竹澤・・ 5 0

子どもと表現B・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀内 有子・・ 5 1

保育内容（健康）の指導法・・・・・・・・・・ 伊藤 能之・・ 5 2

保育内容（環境）の指導法・・・・・・・・・・ 石井 久美子・・ 5 3

保育内容（表現）の指導法・・・・・・・・・・ 森川 みゆき・・ 5 5

3. 教育の基礎的理解に関する科目

子ども社会学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 五十嵐 淳子・・ 5 6

教育・保育の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・ 早川 貴子・・ 5 7

特別支援教育概論・・・・・・・・・・・・・・・・ 五十嵐 淳子・・ 5 8

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児教育方法論・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 田口 賢太郎・・ 5 9

教育相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 早川 貴子・・ 6 0

5. 教育実践に関する科目

教育実習事前事後指導・・・・・・・・・・ 森川 みゆき・・ 6 2

教育実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森川 みゆき・・ 6 3

保育・教職実践演習・・・・・・・・・・ 船田 鈴子・・ 6 6

6. 保育の本質・目的に関する科目

社会福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 福田 光弘・・ 6 8

子ども家庭支援論・・・・・・・・・・・・・・・・ 福田 光弘・・ 6 9

7. 保育の対象の理解に関する科目

[illegible]

8. 保育の内容・方法に関する科目

社会的養護Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・福田 光弘・・・72
子育て支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・竹澤 宏美・・・73

9. 保育実習

保育実習Ⅰ	石井 久美子	74
保育実習Ⅱ	石井 久美子	76
保育実習指導Ⅱ	石井 久美子	77

(別表1) 幼児教育科 教 育 課 程

系 列		科 目	単位数	授業 形態	開 設 時間数	保育士		告示による 教科目	幼稚園教諭		
						単位	時間		単位	時間	
教養科目		日本国憲法	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30	
		体育講義	○ 1	講義	15	1	15	-	1	15	
		体育実技	1	実技	30	1	30	-	1	30	
		情報機器の操作	2	演習	60	2	60	-	2	60	
		英語コミュニケーション	○ 2	演習	60	2	60	-	2	60	
		子どもと自然	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30	
合 計			10		225	10	225		10	225	
専 門 教 育 科 目	領域及び保育内容の指 導法に関する科目	子どもと健康	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと人間関係	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと環境	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと言葉	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと音楽A	○ 2	演習	60	-	-	-	2	60	
		子どもと音楽B	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現A	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現B	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容総論	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
	教育の基礎的理解に関 する科目	教育原理	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		保育・教職論	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		子ども社会学	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育・保育の心理学	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		特別支援教育概論	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育課程論	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
	道徳、総合的な学習の時間等 の指導法及び生徒指導、教育 相談等に関する科目	幼児教育方法論	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		幼児理解の理論及び方法	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育相談	2	演習	60	-	-	-	2	60	
	教育実践に関する 科目	教育実習事前事後指導	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		教育実習	4	実習	180	-	-	-	4	180	
		保育・教職実践演習	2	演習	60	-	-	-	2	60	
	計			41	1050	-	-	-	41	1050	
	専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関 する科目	保育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			*教育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-
			子ども家庭福祉	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			社会福祉	2	講義	30	2	30	必修	2	30
			子ども家庭支援論	2	講義	30	2	30	必修	2	30
			社会的養護Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			*保育・教職論	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-
			*子ども社会学	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-
			*特別支援教育概論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-
		保育の対象の理解に関 する科目	*教育・保育の心理学	2	講義	30	2	30	必修	-	-
			子ども家庭支援の心理学	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			子どもの理解と援助	1	演習	30	1	30	必修	1	30
			子どもの保健	2	講義	30	2	30	必修	2	30
子どもの食と栄養			○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60	
*幼児理解の理論及び方法			○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-	
*教育相談			2	演習	60	2	60	選択必修	-	-	
保育の計画と評価			2	講義	30	2	30	必修	2	30	
保育の内容・方法に関 する科目		*保育内容総論	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		保育内容領域(健康)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(人間関係)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(環境)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(言葉)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(表現)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		*保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		乳児保育Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
		乳児保育Ⅱ	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		子どもの健康と安全	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		障害児保育	○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60	
		社会的養護Ⅱ	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		子育て支援	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		*子どもと健康	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと人間関係	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
	*子どもと環境	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと言葉	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと表現	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと音楽A	○ 2	演習	60	2	60	選択必修	-	-		
	*子どもと音楽B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと表現A	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと表現B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*教育課程論	○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-		
	*幼児教育方法論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-		
保育実習	保育実習Ⅰ	4	実習	180	4	180	必修	-	-		
	保育実習指導Ⅰ	○ 2	演習	60	2	60	必修	-	-		
	保育実習Ⅱ	2	実習	90	2	90	選択必修	-	-		
	保育実習指導Ⅱ	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
総合演習	*保育・教職実践演習	2	演習	60	2	60	必修	-	-		
計			41	1050	77	1890		32	690		
合 計			82	2100	77	1890		73	1740		
総 合 計			92	2325	87	2115		83	1965		

*の付いた科目は保育士、幼稚園教諭の共通科目(計は純計)

○印は1年
無印は2年*児童福祉法施行規則第6条の2による告示に基づく
必修科目・選択必修科目

実務経験のある教員等による授業科目の授業内容 令和7年度

担当教員名	授業科目名	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか）
有川 博	日本国憲法	2	憲法上の機関である会計検査院で、国の財政の検査に従事した経験を踏まえ、憲法は何のために制定されるのか、憲法は誰のためのものかなどについての講義を行う。
皆川 まり	子どもの保健	2	小児科医としての臨床経験と小児保健の研究者としての成果を活かした講義を行う。
竹澤 宏美	乳児保育Ⅰ	2	長年にわたって私立の保育園で保育に従事した経験を通し、乳児保育についての科目である乳児保育Ⅰ・Ⅱについて体験的な講義を展開する。
	乳児保育Ⅱ	1	
早川 貴子	教育・保育の心理学	2	保健センター等における発達相談、発達心理の実務経験を踏まえ、子どもの心身の発達心理、保育と相談援助等について講義を行う。
	子どもの理解と援助	1	

1 年生

1. 教養科目

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：有川 博 授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-日本国憲法		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 立憲主義・憲法の基本原則についての理解を深める。 1) 立憲主義について理解を深める。 2) 国民主権についての理解を深める。 3) 平和主義についての理解を深める。 (2) 基本的人権についての理解を深める。 1) 法の下での平等についての理解を深める。 2) 社会権についての理解を深める。 3) 自由権についての理解を深める。 (3) 三権分立・統治機構の役割についての理解を深める。 1) 国会・内閣・裁判所についての理解を深める。 2) 財政・納税・地方自治についての理解を深める。		
授業の概要	国民の基本的人権の話を中心に据えながら、日本国憲法全般について、国内や海外の最新のニュースや裁判例、欧米の歴史などを織りまぜて解説。講義を通して、憲法は何のために制定されるか（立憲主義）、憲法は誰のためのものか（国民主権）現代社会ではなぜ格差が拡大するのか（資本主義と競争原理）、憲法は格差社会を生きるためにどのような解決策を講じようとしているか（基本的人権の保障・社会権）などについての理解を深め、社会を見つめる力を養う。		
授業計画			
第1回：はじめに——なぜ格差は生じるか、格差社会を生きるために 第2回：「国民主権」の意味、女性が天皇のなるために 第3回：憲法第9条と「平和主義」 第4回：「基本的人権」の保護、人権と人権の衝突と「公共の福祉」の概念 第5回：「法の下での平等」と18歳選挙権、憲法から考えるいじめ問題 第6回：君が代を歌う自由・歌わない自由、女性の再婚禁止期間・夫婦別姓と最高裁の判断、そして現状 第7回：表現の自由と報道・出版の自由、音楽・出版と著作権法 第8回：憲法と刑法・刑事訴訟法、罪と罰と罪刑法定主義 第9回：自白と証拠能力、推定無罪、取り調べの可視化制度と実際 第10回：生活保護費の支給停止・減額と生存権、環境権と地球温暖化問題 第11回：国会と法律、労働権と労働者派遣法 第12回：議院内閣制と衆議院の解散、情報公開制度と公文書管理法 第13回：司法権の独立、裁判員制度と検察審査会 第14回：財政と課税法律主義、地方自治と環境条例 第15回：おわりに——憲法は誰のもの 定期試験			
テキスト	石本伸晃著「世の中がわかる憲法ドリル」平丹社（平凡社新書）		
参考書 参考資料等	随時プリントを配布します。		
学生に対する評価	受講姿勢 50%、定期試験 50%（受講姿勢の評価には、毎回の確認問題に対する取組み・発表等についての評価を含む。）		

授業科目名：体育講義	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	自らの心身の健康を保持・増進するための過ごし方を考え、実践できるようにする。 (1)健康に関する正しい知識を習得している。 (2)心身の健康を保つための実践力を身につけている (3)周囲の人々の健康に配慮したアドバイスができる		
授業の概要	健康や運動に関するさまざまな情報の中から正しい知識を身につけ、運動・栄養・休養のバランスを保ち、心身ともに健康に社会生活を送るために必要な事柄について考えていく。		
授業計画			
第1回：体育・スポーツとは何か 第2回：健康の定義、健康の考え方 第3回：身体の発育発達 第4回：加齢と成人病 第5回：運動の生理（1）呼吸・循環機能 第6回：運動の生理（2）骨格筋・神経機能 第7回：体力の発達とトレーニング 第8回：生活と健康（1）健康な生活 第9回：生活と健康（2）精神の健康 第10回：生活と健康（3）食生活と健康 第11回：生活と健康（4）嗜好品 第12回：生活と健康（5）睡眠と休息 第13回：生活と健康（6）女性の健康 第14回：救急法（1）急病とけがの手当て 第15回：救急法（2）乳幼児の事故の予防とけがや病気の手当て 定期試験			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	定期試験（60%）、レポート課題（20%）、受講態度（20%）から総合的に評価する。		

授業科目名：体育実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 実技
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	運動を楽しむための基礎的な技能を身につける。 (1) 基本の運動がスムーズに行える (2) 基本の動きをアレンジして発展的に運動を行える (3) 子どもの運動遊びに関する知識や技能を習得している (4) 子どもと運動遊びを楽しめる多様な動きや表現力を習得している		
授業の概要	運動を楽しみ、積極的に他者と関わりながら自らの体力を保持・増進させることを目指す。創造的に体を動かす経験を通して、将来的には保育者として子どもたちと運動遊びを楽しめるよう多様な動き、表現、基礎体力を身につける。		
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：基本の運動とその応用（1）歩こう走ろう 第3回：基本の運動とその応用（2）跳ぼう転がろう 第4回：基本の運動とその応用（3）伝承遊び 第5回：遊具を使った運動（1）なわ 第6回：遊具を使った運動（2）ボール 第7回：リズムに合わせた運動（1）グループ活動（大枠の確認） 第8回：リズムに合わせた運動（2）グループ活動（細部の確認） 第9回：リズムに合わせた運動（3）グループ発表 第10回：グループ発表振り返り 望ましい指導とは 第11回：遊具を使った運動（3）バルーンの基本 第12回：遊具を使った運動（4）バルーンを用いたグループ発表 第13回：創作活動（1）発表会準備（大枠の確認） 第14回：創作活動（2）発表会準備（細部の確認） 第15回： グループ作品発表会（まとめ）			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	受講態度（50%）、レポート課題（20%）、定期試験（30%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 英語コミュニケーション	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：甘糟 節子
			授業形態：単独 演習
科 目	教養科目-英語コミュニケーション		
授業の到達目標 及びテーマ	保育士、幼稚園教諭として必要な英語の習得。 外国文化、多様性を重んじる姿勢の育成。 外国の言葉のみならず、様々な方面の興味を引き出す。		
授業の概要	外国人の子どもの保育に必要な英語の習得。 文化の違いの理解を深めるための知識の習得。 保育の現場での児童英語活動に必要な英語習得。 全体目標：英語に親しみを持ち、異文化に興味を持った保育士の養成		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、Ice Breaker、自己紹介			
第 2 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 3 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 4 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 5 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 6 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 7 回：名画鑑賞（The Sound of Music）			
第 8 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 9 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 10 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 11 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 12 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 13 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 14 回：名画鑑賞（Mary Poppins）			
第 15 回：まとめ			

授業計画	
第 16 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 17 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 18 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 19 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 20 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 21 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 22 回：名画鑑賞（Home Alone） 第 23 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 24 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 25 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 26 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 27 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 28 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 29 回：名画鑑賞（Charlotte's Web） 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	保育の英会話（最新版）（萌文書林） 英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語（大学図書出版）
参考書 参考資料等	児童英語教育を学ぶ人のために（世界思想社） 保育英語検定テキスト（本の泉社）
学生に対する評価	受講態度（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 子どもと自然	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘 授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-子どもと自然		
授業の到達目標 及びテーマ	都市の人工的環境においても存在する自然を見いだし、その特質と意義を考察し、子どもたちにどのようにそれらを提示すればよいかを模索する。		
授業の概要	講義を通し、私たちの生活環境を見つめ直し、実際に学校の周りの環境を観察し、私たちは自然とどのようにかかわり合うべきであるかを考える。また私たちの自然への態度を、どのように子どもに伝えていくのかも併せて考察の対象とする。		
授業計画			
第 1 回：自然とは？：内なる自然と外なる自然			
第 2 回：都市環境における自然Ⅰ			
第 3 回：都市環境における自然Ⅱ			
第 4 回：自然観察Ⅰ；地域の自然環境を知ろう 公園で見られる生物			
第 5 回：観察できた自然環境についてのグループワーク・発表			
第 6 回：身の回りで観察される植物Ⅰ			
第 7 回：身の回りで観察される植物Ⅱ			
第 8 回：自然観察Ⅱ；公園で見られる植物			
第 9 回：観察できた植物についてのグループワーク・発表			
第 10 回：身の回りで観察される生物Ⅰ（主に昆虫・鳥類）			
第 11 回：身の回りで観察される生物Ⅱ（主に昆虫・鳥類）			
第 12 回：自然観察Ⅲ；公園で見つけた生物			
第 13 回：観察できた生物についてのグループワーク・発表			
第 14 回：保育に有用な自然とは何か			
第 15 回：まとめ			
テキスト	特に指定なし、授業内にて随時資料を配布する		
参考書・参考資料等	適宜（新聞の記事を含む）		
学生に対する評価	発表（60%）、授業参加態度（40%）から総合的に評価する。		

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人との関わりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達特性を踏まえた、人との関わりを育てる保育者の役割と援助について習得する。一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、関わっていくことはどういくことを捉え、人と関わる力を養う「人間関係」の領域について、理解し保育実践力を養うことを目指す。		
授業の概要	子ども達の「人と関わる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め乳幼児期の人間関係の発達特性を踏まえた保育実践のあり方を指導する。幼児の「人と関わる力」がどのように育まれていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション～領域「人間関係」とは～ 第 2 回：領域「人間関係」のねらいと内容 第 3 回：3 歳未満児の人と関わる力の育ち 第 4 回：3 歳以上児の人と関わる力の育ち 第 5 回：子どもの言葉と人間関係 第 6 回：子どもの遊びと人間関係（映像使用） 第 7 回：人との関わりを育てる支援のあり方 第 8 回：子どもの人間関係を育む保育者の役割 第 9 回：子どもの人間関係の広がり（園生活や地域へ） 第 10 回：乳幼児期の自立心や協同性の育ち 第 11 回：幼児期に育みたい人と関わる力 第 12 回：人と関わる力の育ちと環境との関係性～事例を通して考える～ 第 13 回：道徳性と規範意識の芽生え 第 14 回：保育者と保護者の人間関係 第 15 回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題 定期試験			
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係学びグローバル社会の子どもの未来を見据えて』 大学図書出版 2021 年 3 月発行 ISBN978-4-909655-49-3		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、提出課題（10％）、個人発表（40％）、受講態度（10％）		

授業科目名： 子どもと環境	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	幼児を取り巻く様々な環境の意義、また発達に及ぼす影響や課題についての知識を深め、望ましい環境のあり方や環境構成の方法について理解する。 幼児期の文字や数、法則などの概念に関する発達理解を深める。また幼児の生活との関連や体験させたい内容を考慮した保育教材の効果的な活用方法について学び、保育の構想に役立てられるようになる。		
授業の概要	乳幼児期は環境を通して行う教育が重要であることを踏まえ、気づきの感性を磨き、保育に必要な知識や技術を身につける。 領域「環境」のねらいや内容について、事例や映像などを通してより理解を深め、幼児を取り巻く環境との適切な関わり方について考えていく。また、幼児の発達と環境の関連性などについての学びを深める。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス、領域「環境」について 第 2 回：現代社会における環境の現状（映像使用） 第 3 回：子どもの発達と環境、環境に関わる力を育てる 第 4 回：子どもを取り巻く人的環境 第 5 回：子どもを取り巻く物的環境 第 6 回：子どもを取り巻く自然環境 第 7 回：子ども取り巻く社会的環境（園（保育室・園庭・園外保育）、地域、関係諸機関） 第 8 回：気になる子どもと環境 第 9 回：子どもと生活（文字や形、数との関わり） 第 10 回：子どもと生活（科学や法則との関わり） 第 11 回：子どもと生活（時間や季節・行事との関わり） 第 12 回：子どもにとっての安全な環境づくり 第 13 回：環境としての保育者の役割 第 14 回：主体的に関わる・生きる力を育むための環境づくり 第 15 回：まとめ【環境を通して行う保育と現代的課題】 定期試験			
テキスト	保育実践を生かす保育内容「環境」（教育情報出版） 教材で楽しむ実践と方法—豊かな感性の育成に向けて—（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。言葉を育て想像力を豊かにする児童文化財の意義や内容について理解する。		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えた上で、乳幼児期の言葉の獲得過程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎的知識を身につけることを目指していく。		
授業計画			
第 1 回：言葉とは何か 第 2 回：領域「言葉」の内容理解 第 3 回：言葉に関わる現代社会の課題 第 4 回：乳幼児期における言葉の発達①0 歳～2 歳 第 5 回：乳幼児期における言葉の発達②3 歳～6 歳 第 6 回：生活体験と言葉 第 7 回：遊びと言葉 第 8 回：感動体験と言葉 第 9 回：言葉の発達を促す児童文化財（言葉の発達を促す教材の応用） 第 10 回：文字との出会い 第 11 回：子どもの育ちを支える保育者の言葉（映像を使用） 第 12 回：言葉の関わりに配慮を要する子ども（映像を使用） 第 13 回：保幼小の連携と言葉 第 14 回：幼児期の言葉の課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60％）、課題提出（20％）、受講態度（20％）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと表現	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について全体構造を理解する。領域「表現」に関わる子どもが自分の思いや意見をもって主体的に取り組むことができる表現活動について学び理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。表現活動における知識や技法を習得し、より、豊かな表現活動につなげていくことができる。		
授業の概要	領域「表現」に示される子どもの豊かな感性や表現を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例や映像等を通して具体的に学習する。子どもが生活の中で様々な表現方法を育んでいくための知識や援助のあり方を身につける。		
授業計画			
第 1 回：保育における領域「表現」とは 第 2 回：表現の発達 第 3 回：表現を育むということ (身体による表現) 第 4 回：表現を引き出す援助 (身体による表現) 第 5 回：表現を育むということ (音楽による表現) 第 6 回：表現を引き出す援助 (音楽による表現) 第 7 回：表現を育むということ (造形による表現) 第 8 回：表現を引き出す援助 (造形による表現) 第 9 回：表現力を豊かにするワーク (身体による表現) 第 10 回：表現力を豊かにするワーク (音楽による表現) 第 11 回：表現力を豊かにするワーク (造形による表現) 第 12 回：表現力を豊かにするワーク (総合的な表現) 第 13 回：表現を育む援助指導 (指導計画案の基本) 第 14 回：表現を育む援助指導 (指導計画案の作成) 第 15 回：領域「表現」をとりまく問題 定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現－日々わくわくを生きる子どもの表現－（わかば社）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと音楽A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：山浦 勝雄 洞庭 容子・山崎 未貴・加藤 瑞恵 担当形態：クラス分け 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を十分に理解した上で、保育者に必要な音楽的基礎能力の育成を目標とする。 ①幼児のための歌唱教材の基本的楽典が理解できる。 ②簡単なメロディー・リズムの初見視奏ができる。 ③コード進行を理解し、メロディーに合ったコード伴奏ができる。 子どもの発達段階に応じた援助・指導法を習得する。		
授業の概要	保育者に必要な楽典・ソルフェージュなどの講義、伴奏法・視奏などの演習を行う。個人あるいはグループによる音楽作品の発表を行う。器楽の学習は、日々の予習・復習が大切であり、各自の課題を練習した上で授業に臨む必要がある。学習のフォローとして、希望者にはオンラインによる学習環境を設ける。実習を視野に入れた実践的な教材研究・表現方法を習得する。		
授業計画			
第 1 回：クラスごとに分かれ、今後の個人レッスンの説明をする。各自にふさわしい曲を決め、予習のためのアドバイスをする			
第 2 回：バイエルや同程度の小品、季節のうた（4 月）の弾き歌いを練習する			
第 3 回：ブルグミュラーや同程度の小品、季節のうた（5 月）の弾き歌いを練習する			
第 4 回：ソナチネや同程度の小品、季節のうた（6 月）の弾き歌いを練習する			
第 5 回：日本の子どものための小品、季節のうた（7 月）の弾き歌いを練習する			
第 6 回：諸外国の子どものための小品、季節のうた（8 月）の弾き歌いを練習する			
第 7 回：コードネーム伴奏、季節のうた（9 月）の弾き歌いを練習する			
第 8 回：コードネームによる弾き歌い、季節のうた（10 月）の弾き歌いを練習する			
第 9 回：生活のうた、季節のうた（11 月）の弾き歌いを練習する			
第 10 回：行事のうた、季節のうた（12 月）の弾き歌いを練習する			
第 11 回：子どものポピュラー曲・アニメ曲、季節のうた（1 月）の弾き歌いを練習する			
第 12 回：わらべうた、季節のうた（2 月）の弾き歌いを練習する			
第 13 回：初見視奏、季節のうた（3 月）の弾き歌いを練習する			
第 14 回：試験曲（ピアノ曲、弾き歌い曲）を練習する			
第 15 回：まとめ			
実技試験			

授業計画	
第 16 回： オリエンテーション・・・領域「表現」の狙いと内容を理解し、音楽表現との関連性について知る。 課題曲と授業形態について説明 第 17 回： 園生活の朝の挨拶を想定しながら楽しく歌えるようにピアノを弾く 指使いやリズムに注意して演奏する（おはようのうた） 第 18 回： 園の日常生活を想定しながら一緒に楽しくできるようにピアノを弾く リズムに気をつけて演奏する（おててをあらいましょう） 第 19 回： 園での食後や家庭での食後で楽しく歯磨きができるようにピアノを弾く メロディをしっかり弾けるようにし、園児が歌い易いようにする（歯をみがきましょう） 第 20 回： 園生活の朝の始まりを想定し一日が楽しくなるきっかけとなるようにピアノを弾く 園児が明るく元気になるような演奏にする（朝のうた） 第 21 回： 身体の諸感覚を通した喜びの表現ができるようにピアノを弾く 園児が歌い易いように滑らかな演奏をする（大きな栗の木の下で） 第 22 回： 季節の歌を演奏し園児に季節感を持たせるようにピアノを弾く 歌唱しながら演奏する（春がきた） 教科書の記号を理解する 第 23 回： 外国の歌を園児が楽しみながら歌えるようにピアノを弾く 英語の歌詞で楽しく歌えるように弾き歌いをする（きらきら星） 理論テスト 第 24 回： 園での遊びを想定しながら楽しく歌えるようにピアノを弾く 園児が楽しく歌えるように演奏する（かわいいかくれんぼ） 第 25 回： 室内で遊ぶ情景を想定しながら楽しく歌えるようにピアノを弾く 園児が楽しく表現できるように表情豊かに演奏する（むすんでひらいて） 第 26 回： 一日の終わりを想定しながらピアノを弾く 園児と保育者が楽しかった一日であったと思わせる演奏をする（おかえりのうた） 第 27 回： 楽しい行事を想定しながら言葉の意味や情景が伝わるようにピアノを弾く 滑らかに演奏する場面と弾む場面の違いを表現しながら演奏する（やきいもグーチーパー） 第 28 回： 身体を動かしながら表現活動ができるようにピアノを弾く 保育者自身が楽しく演奏することで園児に共有させる（手をたたきましょう） 第 29 回： 表現豊かに歌いながらピアノを弾く（山の音楽家） 第 30 回： 正しいリズムや豊かな表現力でメロディやピアノを弾く（雪・森のくまさん） 実技試験	
テキスト	・各自の能力に応じてバイエル・ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタなどの教材を使用する。 ・「幼児のための音楽教育」（教育芸術社）
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、そのほか適宜資料を配布する。
学生に対する評価	実技試験 50%、毎回の課題の達成度 30%、受講態度 10%、小テスト 10%

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	①保育の基本となる保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、保育内容を理解する。②保育内容の歴史的変遷について学ぶ。③保育内容の展開として、子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の視点を学ぶ。④養護と保育の一体化について保育実践につなげて理解する。⑤保育の多様な展開について学び、今日的課題を把握する。		
授業の概要	保育内容総論は、各論としてとらえられる保育内容を総合的に把握して理解するものである。子どもの育ちを支える保育者として求められる知識と保育技術、その他保育内容に関わることを総合的に学び身につけることを目標とする。		
授業計画			
第 1 回：保育の基本と保育内容（保育内容とは、保育の構造・構成、保育内容の総合的把握）			
第 2 回：保育の特質（幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容の考え方、幼稚園教育の特質—幼稚園教育要領、保育所保育指針の特質—保育所保育指針）			
第 3 回：保育内容の変遷（戦前・戦後の保育内容、幼稚園創設と恩物による保育の開始、幼稚園の普及と保育内容の改編、幼稚園教育の確立 ※含む保育所）			
第 4 回：幼児の発達と生活（幼児の発達、年齢ごとの発達、幼児の生活、保育内容との関連）			
第 5 回：環境と保育内容（幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること幼児理解と保育内容）			
第 6 回：遊びによる総合的な保育（遊びを通しての総合的指導、遊びを支える遊びの援助）			
第 7 回：幼児理解と保育内容（カウンセリングマインド（子どもと寄り添う）、子どもを見る目、記録することによる幼児理解）			
第 8 回：保育内容と保育の計画①（保育における計画、保育の計画の考え方、指導計画の考え方、具体的な指導計画）			
第 9 回：保育内容と保育の計画②（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）			
第 10 回：保育内容と保育の計画③（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）			
第 11 回：保育内容と保育の展開（幼稚園・保育所における指導の課題、保育形態（形態自在）、行事の捉え方）			
第 12 回：保育の評価と記録（評価とはなにか、保育と記録、自己表現）			
第 13 回：保育所の役割（保育者の使命と役割、保育者の人間性、受容と共感、保育者の資質の向上）			
第 14 回：保育内容における現状と課題（小学校教育との連携、幼保小や認定子ども園との関連、家庭や地域との関連）			
第 15 回：今日の保育に課題と保育内容（生活環境の変化と保育内容）			
定期試験			
テキスト	浅見均「新版 子どもの育ちを支える 保育内容総論」大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、受講態度（10%）、課題提出（10%）、個人発表（40%）		

授業科目名： 保育内容（人間関係） の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「人間関係」のねらいと保育内容を踏まえ、幼稚園教育において育みたい資質、能力について理解し、子どもの姿と指導計画に基づいた保育実践ができるようになることを目標とする。子どもの発達にふさわしい「人間関係」の育ちについて具体的な保育の構想や実践する方法を身につける。模擬保育やロールプレイなどの振り返りを通して保育を改善する力を修得する。		
授業の概要	本講義では、一人ひとりの子どもの発達を見通した保育の展開を目指し、子どもの実態や生活に即した領域「人間関係」に視点をあてた指導計画の作成に基づき、模擬保育の実際の事例をとおして保育実践ができるように理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、保育内容指導法「人間関係」について			
第 2 回：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、要領「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を理解する。			
第 3 回：領域「人間関係」に視点をあてた幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点を理解する。			
第 4 回：個と集団との育ちの関係性について			
第 5 回：自立心を育む援助について事例に沿って検討			
第 6 回：人とのかかわりを育てる保育者の援助及び留意点について事例に沿って検討			
第 7 回：葛藤体験を通してルールや決まりの必要性について事例に沿って検討			
第 8 回：模擬保育の指導案を立案する―保育場面の中で育つ人とのかかわりを育てる保育を想定した指導案を立案する。			
第 9 回：模擬保育の実践			
第 10 回：模擬保育の振り返り―具体的事例に触れ、振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ、保育を構想する方法を理解する。			
第 11 回：領域「人間関係」に関連した保育場面を想定して、人との関わりの育ちを見る視点について主体的、対話的に学び、グループ毎に検討しまとめる。			
第 12 回：保育内容領域「人間関係」の指導法の課題について考え話し合う。			
第 13 回：遊具や用具を集団の中で協力し合ったり、譲り合ったりする体験を通じた遊びの理解（情報機器を使用した保育を行う）			
第 14 回：領域「人間関係」に視点をあて、地域との連携・交流、小学校の教科等のつながりを理解する。			
第 15 回：保育内容領域「人間関係」の指導法をめぐる現代的課題とまとめ			
定期試験			
テキスト	著者：五十嵐淳子・柳生崇志・田口賢太郎・木戸直美 『子どもと保育―保育内容（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の理解を目指して―』 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、提出課題（10%）、個人発表（40%）、受講態度（10%）		

授業科目名： 保育内容（言葉）の 指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、乳幼児の言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め保育実践力を養う。また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を情報機器等を使って研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。子どもが体験し身につけていく方法や指導上の留意点や言葉の特性や発達のプロセスを理解する。		
授業の概要	保育現場において子どもたちが様々な言語教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるよう環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用したり、グループでディスカッションを行ったりしながら保育実践ができるように理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回：保育内容指導法「言葉」とは・・・本授業の講義計画について 第 2 回：幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造について理解する。 第 3 回：子どもの「言葉」の発達過程Ⅰ （言葉を育む基盤と話し言葉の獲得の道筋や発達の特徴を理解する） 第 4 回：子どもの「言葉」の発達過程Ⅱ （子どもの文字との出会いや獲得過程に視点をあて、小学校の教材とのつながりを理解する。） 第 5 回：子どもが文字で伝える楽しさを育む援助 （文字を使った豊かな体験ができる様にいろいろな文字教材を作る。） 第 6 回：言葉を育む喧嘩やトラブルの場面でのかかわり方の方法 （場面に応じたかかわり方についてグループ毎に検討し合い発表する） 第 7 回：子どもの言葉を豊かにする絵本・紙芝居の選び方と保育の中での生かし方 第 8 回：絵本・紙芝居の読み聞かせの実践 （実際の絵本や紙芝居を使って視聴していく場合とタブレットを使っての絵本や紙芝居の視聴との違いについてグループ毎に討議し、それぞれの特性を把握したうえで、読み聞かせを実践する。） 第 9 回：「言葉」に対する感覚を豊かにする言葉遊び （しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びの実践と手作り教材の作成をする。） 第 10 回：言葉遊びの実際と保育の中での生かし方（情報機器や教材を使用した保育を行う。） 第 11 回：エプロンシアター・パネルシアター・人形劇・ペープサート・素話の活用方法と留意点について 第 12 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育－指導案作成 第 13 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育－実践 第 14 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育－振り返り （振り返りを通して保育を改善する。また、主体的・対話的に学びが実現する具体的な場面を想定した保育を構相する力を身に付ける。） 第 15 回：現代社会における「言葉」に関わる課題 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度・課題提出・表現技術（40%）から総合的に評価する。		

3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 教育原理	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：森 和宏 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 教育の基本的概念を理解するとともに、教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係について理解できる。 2. 家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開について理解し、それらの知識にもとづいて、現代社会における教育課題を歴史的に考える力を身につける。 3. 教育、学習、子どもに関わる様々な思想を理解し、それらと多様な教育の理念や実際の教育・学校との関わりについて理解できる。		
授業の概要	「教育」は社会においても、またそれを生きる一人ひとりの人生においても欠かすことのできないものである。また、多くの人にとって、「教育」は身近に経験することがらでもある。しかしながら、「教育とは何か?」、あるいは「良い教育とは何か?」といった根源的な問いに答えることは容易ではない。そこで、この授業では、「教育」について幅広い視点から捉え直し、自分なりの意見を表現する力を養うことを目指したい。そのために、まず教育とはどのような営みであるのかについて、基礎的な概念を概観する。次いで、それらを踏まえたうえで、西洋並びに日本の教育の歴史と思想をたどり、今日までの教育がどのような理念に基づいて成立し、どのような歴史的な過程をたどってきたのかを考察する。最後に、講義をとおして得られた教育の歴史と思想に関する知見に基づいて、現代の教育を対象化し、それらの教育課題について歴史的・思想的に考察する可能性について確認する。		
授業計画			
第1回 インTRODakション：「教育」とは何か 第2回 教育の基礎（1）：子ども・家族・社会 第3回 教育の基礎（2）：「学び」とは何か 第4回 教育の基礎（3）：近代以前の人間形成 第5回 教育の歴史と思想（1）：近代社会と教育 第6回 教育の歴史と思想（2）：学校教育制度の成立と定着 第7回 教育の歴史と思想（3）：新教育運動の思想と実践 第8回 教育の歴史と思想（4）：日本における学校の誕生と定着 第9回 教育の歴史と思想（5）：大正新教育と戦時下の教育 第10回 教育の歴史と思想（6）：戦後の教育改革 第11回 教育の歴史と思想（7）：高度成長期の学校と社会 第12回 教育の歴史と思想（8）：学校教育のゆらぎ 第13回 教育の現代的課題（1）：教育における「自由」 第14回 教育の現代的課題（2）：インクルーシブな教育にむけて 第15回 講義のまとめ			
テキスト	使用しない。		
参考書 参考資料等	特に指定しない。授業中に適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業への参加およびリアクションペーパーの記入・提出（40%）、期末レポート（60%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 保育・教職論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：小林 恵 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者の職務を理解し、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、幅広い資質を身につける。また、保育者の制度的な位置づけと社会的な意義について理解し、義務と倫理について理解する。		
授業の概要	保育者としてのあるべき姿とその実際について、具体的な事例（学生の実習体験等も含む）を通し考察し、求められる保育者像とその意義や役割の理解を深める。また、現代社会が求める保育者の資質や能力、職務内容等について習得する。		
授業計画			
第 1 回：保育・教育とは－「保育者になる」ということ－ 第 2 回：保育者の仕事－保育者の 1 日を知る－ 第 3 回：保育という仕事の実態（1） 第 4 回：保育という仕事の実態（2） 第 5 回：保育者の役割 第 6 回：保育者の倫理 第 7 回：職務内容の理解（1） 第 8 回：職務内容の理解（2） 第 9 回：保育者の専門性－保育者に求められる能力－ 第 10 回：保育者の専門性－保育カンファレンスの事例を通して－ 第 11 回：保育者の専門性－保育者としての学びとキャリア形成－ 第 12 回：地域の中の保育者の役割 第 13 回：学びあう保育者－チーム保育と保育者の同僚性－ 第 14 回：保育者の協働と連携 第 15 回：保育者の現状と今後の課題 定期試験			
テキスト	新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第 4 版 （(株) みらい）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 教育課程論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：田口 賢太郎
			授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育課程の意識及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成のポイントや方法について理解する。		
授業の概要	教育課程についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。教育課程を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス～教育課程とは～ 第 2 回：教育課程の意義 第 3 回：教育要領の歴史的変遷 第 4 回：指導計画と保育の実際（VTR・・・はじめての幼稚園実習） 第 5 回：教育課程編成の基本と原理 第 6 回：保育計画の種類と特徴 第 7 回：長期（年間・月間）の指導計画（編成方法） 第 8 回：短期（週案・日案）の指導計画（編成方法） 第 9 回：子どもの発達や実態と合った指導計画 第 10 回：実習指導案の作成と留意点（実際に作成） 第 11 回：保育の記録と評価 第 12 回：子どもの実態と計画、教育課程との関連 第 13 回：保育の計画と実践と評価との関係性 第 14 回：カリキュラムマネジメントの意義と重要性 第 15 回：まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～ 定期試験			
テキスト	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	特に指定しないが授業内で適宜紹介する。		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）により総合的に評価する。		

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児理解の理論及び方法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子 授業形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	幼児理解の知識や考え方について知り、理解するための具体的な方法や適切な援助方法についてを学ぶ。また、保育者としての役割・職務内容について理解し、保護者支援の方法を実践を通して学びを深める。		
授業の概要	事例や映像資料、絵本などを使用して幼児の気持ち理解に努め、幼児理解するための視点や具体的な方法について学ぶ。また、発達に偏りがある幼児などの保護者を支援する方法について映像資料やロールプレイの実践などを通して理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス、幼児理解とは 第 2 回：幼児期の成長と発達の基本 第 3 回：「理解する」とは 第 4 回：遊びと幼児理解 第 5 回：幼児理解をするために必要な保育者の基本的な姿勢 第 6 回：幼児理解の目的と具体的な方法 第 7 回：幼児理解のための役立つ記録の方法①【ドキュメンテーション】 第 8 回：幼児理解のための役立つ記録の方法②【エピソード記録】 第 9 回：集団（クラス）の理解と援助や指導方法 第 10 回：つまずきのある幼児の理解とその方法 第 11 回：小学校との連携（就学前の連携など） 第 12 回：幼児理解のための様々な連携（保護者） 第 13 回：幼児理解のための様々な連携（保育者同士、他職種、関係諸機関） 第 14 回：保育者の自己理解と保育の改善、幼児理解の力を磨く方法 第 15 回：まとめ【幼児の最善の利益とは】 定期試験			
テキスト	幼児理解の理論と方法－発達や学びの過程に生じる「つまずき」に焦点を当てて（中央法規出版）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

5. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 保育原理		単位数： 2 単位	担当教員：森川 みゆき 授業形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・ 保育の意義、保育所保育指針、幼稚園教育要領における保育の基本を理解する。 ・ 保育の思想と歴史について学び、それぞれの保育観、子ども観について考える。 ・ 授業で得た知識をふまえて、保育実践について主体的に考えることができる。		
授業の概要	現代の子どもを取り巻く環境をふまえながら「保育とは何か」を広い視点から学び、保育の現状と課題を理解する。保育の社会的役割や制度、歴史、思想、保育ニーズ等保育を行う上で基本となる知識、考え方を学ぶ。また、子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深めるようにする。		
授業計画			
第 1 回：子どもとは 第 2 回：保育とは何か 第 3 回：欧米における保育思想の歴史 第 4 回：日本における保育思想の歴史 第 5 回：日本における保育制度 第 6 回：保育のねらい、内容、方法（1）保育所① 第 7 回：保育のねらい、内容、方法（2）保育所② 第 8 回：保育のねらい、内容、方法（3）幼稚園 第 9 回：保育のねらい、内容、方法（4）認定こども園 第 10 回：保育の計画と評価 第 11 回：子どもの理解に基づく保育 第 12 回：地域社会における子育ての支援 第 13 回：保幼小及び家庭との連携 第 14 回：保育の現状と課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	改訂 保育原理 子どもの保育の基本理論の理解（萌文書林）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度）		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子ども家庭福祉		単位数： 2 単位	担当教員名：石山 直樹
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	- 子どもとその家族を取り巻く社会環境ならびに抱える生活課題の現状を正しく理解し、その特徴を説明することができる。 - 子ども家庭福祉にかかわる法制度やサービスの実施体制を正しく理解し、その内容を説明するとともに、課題についても述べるができる。 - 子どもがもつ権利ならびに今日の社会における子ども家庭福祉の意義についての正しい理解をもとに、今日そしてこれからの社会における保育士の役割について考察することができる。		
授業の概要	今日の子どもとその家族が直面している生活問題とその社会的背景をふまえて、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスの全体像を把握していきます。また、社会福祉の専門職として、保育所以外にもさまざまな施設・機関などで子どもとその家族とかかわる保育士に求められる役割を理解していきます。そして、保育士を目指すにあたって「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断ができるようになることを目指します。		
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法等の説明） 子ども家庭福祉の理念と子どものもつ権利について			
第2回：子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景（少子化問題を中心に）			
第3回：子どもとその家族を取り巻く社会環境および子どもと家族の生活スタイルの変化とその背景			
第4回：日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史			
第5回：子ども家庭福祉に関する法制度			
第6回：子ども家庭福祉に関わる社会福祉施設・機関と専門職者			
第7回：子ども家庭福祉の現状と課題①（子育て支援と保育サービス）			
第8回：子ども家庭福祉の現状と課題②（子どもに対する虐待問題への対応策）			
第9回：子ども家庭福祉の現状と課題③（社会的養護を必要とする子どもに対する援助）			
第10回：第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認（中間試験） 子ども家庭福祉の現状と課題④（非行傾向および心理的な不安定さを抱える子どもへの援助）			
第11回：第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認（中間試験）の解説 子ども家庭福祉の現状と課題⑤（障がいのある子どもとその家族に対する援助）			
第12回：子ども家庭福祉の現状と課題⑥（配偶者からの暴力（DV）に関する対応策）			
第13回：子ども家庭福祉の現状と課題⑦（ひとり親家庭に対する援助）			
第14回：子ども家庭福祉の現状と課題⑧（母子保健・子どもの健全育成に関するサービス）			
第15回：まとめ（これからの子ども家庭福祉と保育士の社会的役割について）			
テキスト	比嘉真人監修、石山直樹・岡本真幸・田家英二編『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論（第3版）』株式会社みらい、(ISBN：978-4-86015-655-8)		
参考書・ 参考資料等	『福祉・保育小六法 2025年版』（株式会社みらい）、保育所保育指針 など ※『福祉・保育小六法 2025年版』に代えて、e-gov法令検索 (https://elaws.e-gov.go.jp/) を活用しても結構です。（法律の条文を調べる際など）		
学生に対する評価	中間試験(40%)、期末試験(レポート)(35%)、授業内課題(15%)、授業への参加度(10%)		

授業科目名： 社会的養護Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	社会的養護の意義や、児童福祉施設における養護の基本理念について理解し、施設における保育士業務や役割、および基本的な仕組みや事項について理解を深める。		
授業の概要	社会的養護について、その意義や歴史的変遷、制度や体系について理解を深めながら、保育士に求められる専門性や実践について、具体的な対応方法（生活支援や自立支援など）を学び理解する。		
授業計画			
第 1 回：社会的養護とは 第 2 回：社会的養護の歴史的変遷 第 3 回：社会的養護と保育士の倫理 第 4 回：社会的養護に関わる法律と制度① 第 5 回：社会的養護に関わる法律と制度② 第 6 回：社会的養護の基本理念 第 7 回：社会的養護の原理 第 8 回：社会的養護の体系と実際 第 9 回：社会的養護の体系（施設養護） 第 10 回：社会提供後の体型（家庭養護） 第 11 回：社会的養護における子ども理解 第 12 回：社会的養護における支援 第 13 回：社会的養護に関わる専門職 第 14 回：社会的養護に関わる相談援助の知識と技術 第 15 回：全体まとめ 定期試験（筆記）			
テキスト	下尾直子・雨宮由紀枝編著『実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅰ・Ⅱ』 大学図書出版 2024 年 ISBN978-4-909655-80-6 なお、このテキストは 2 年次配当科目「社会的養護Ⅱ」でも継続して使用する。		
参考書 参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	課題（30％）・期末試験（70％）から総合的に評価する。		

6. 保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子ども家庭支援の心理学		単位数： 2 単位	担当教員：早川 貴子
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人の誕生日から死までの生涯発達をおさえた上で、家族・家庭との関連について講義する。また、子どもからおとなまでの取り巻く環境とのかかわり、現実の子どもやおとなの姿などの理解を深める。		
授業の概要	(1) 生涯発達の観点をふまえながら子どもの心身の発達の基礎を学ぶ。 1) 子どもの心身の発達に関わる心理学の基礎を理解し、習得する。 2) 生涯発達の観点から発達の過程を理解する。 3) 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 (2) 家族・家庭の意義や機能をふまえながら、親子関係・家族間等について発達的に理解し包括視点を習得する。 1) 家族・家庭の意義と機能を理解する。 2) 親子関係・家族関係を理解する。 (3) 精神保健とその課題 1) 子どもの健康にかかる問題について理解する。 2) 特別な配慮を要する家庭について知識を得る。		
授業計画			
第 1 回：子ども家庭支援の心理学 第 2 回：乳幼児期の発達的特徴 第 3 回：乳幼児の発達的特徴 第 4 回：学童期の発達的特徴 第 5 回：思春期から青年期の発達的特徴 第 6 回：子どもの心と健康① 第 7 回：子どもの心と健康② 第 8 回：成人期から老年期の発達的特徴 第 9 回：家族システムと家族発達 第 10 回：親になるとはどういうことか 第 11 回：子育て支援の社会状況の変化 第 12 回：ライフワークとワーク・ライフ・バランス 第 13 回：多様な子育て家族とその支援 第 14 回：特別な配慮を必要とする家族とその支援 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	資料を配布する		
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（20%）、試験（80%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもの食と栄養		単位数： 2 単位	担当教員：加藤 由美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。 4、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業の概要	食育に重点をおき、乳幼期、幼児期、学童期、思春期の各段階に応じた食生活のあり方と問題点、および母親・保護者になる者として母性栄養も学習する。		
授業計画			
第1回：	第1章	子どもの健康と食生活の意義	
	1.1	子どもの心身の健康と食生活	1.2 子どもの食生活の現状と課題
第2回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.1 発育・発達の基本的知識
第3回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.2 子どもの消化器官・排泄機能の発達の基本的知識
第4回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.3 食べる機能の発達に関する基本的知識
第5回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.4 発育・栄養状態の評価
第6回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	1	栄養と栄養素	2 エネルギー 3 栄養素の種類と機能 (1) たんぱく質
第7回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	3	栄養素の種類と機能 (2)	脂質の基礎知識
第8回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	3	栄養素の種類と機能 (3)	糖質（炭水化物）の基礎知識
第9回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	3	栄養素の種類と機能 (4)	ビタミンの基礎知識
第10回：	まとめ	小テスト（1～9まで）	
第11回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	3	栄養素の種類と機能 (5)	ミネラルの基礎知識
第12回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	3	栄養素の種類と機能 (6)	水 (7) フィトケミカル
第13回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
	4	食品群ごとの栄養の特徴	
第14回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.2 小児の食事摂取基準 3.3 献立作成と調理の基本
第15回：	基礎調理	（実習について）	

授業計画	
第16回：	第4章 食の衛生と安全 4.1 食中毒の原因とその特徴 4.2 食品表示について 4.3 健康や栄養に関する表示の制度 4.4 食品添加物について
第17回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.1 胎児期（妊婦）
第18回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.2 乳児期
第19回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.2 乳児期 （調乳、離乳食）実習
第20回：	まとめ 小テスト（11～19まで）
第21回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.3 幼児期 5.4 学童期・思春期
第22回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.3 幼児期 5.4 学童期・思春期 実習
第23回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.5 生涯発達と食生活
第24回：	第6章 食育の基本と内容 6.1 食育における養護と教育の一体性 6.2 食育の内容と計画および評価
第25回：	第6章 食育の基本と内容 6.3 食育のための環境 6.4 食生活指導および食を通じた保護者への支援
第26回：	第7章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 7.1 家庭における食事と栄養 7.2 児童福祉施設における食事と栄養 7.3 災害時の栄養・食生活支援体制
第27回：	第8章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 8.1 疾病および体調不良のこどもへの対応
第28回：	第8章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 8.2 障害のある子どもへの対応
第29回：	第9章 食物アレルギーの基本的知識 9.1 食物アレルギーのあるこどもへの対応 9.2 保育所における食物アレルギーの対応
第30回：	まとめ 定期試験
テキスト	イラスト 子どもの食と栄養（東京教学社）
参考書 参考資料等	必要に応じて資料を配布いたします。
学生に対する評価	期末試験（50%）、小テスト・提出課題（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）からの総合的に評価する。（実習は、必ず出席しレポートを提出すること。）

7. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 保育の計画と評価		単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の全体的な計画の基礎を知り、指導計画作成の手順と留意点、教育課程との関係性について理解する。全体的な計画を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業の概要	保育の計画と評価の意義及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成の方法や留意事項について理解する。		
授業計画			
第 1 回：教育・保育における計画と評価 第 2 回：指導計画の立案と役割 第 3 回：教育課程および保育の計画の意味 第 4 回：教育課程・保育の計画の歴史的変遷 第 5 回：教育課程・保育の計画の編成の類型 第 6 回：教育課程の編成，保育の全体的な計画の作成 第 7 回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等での指導計画の位置づけ 第 8 回：乳児（0・1 歳児）の指導計画立案の実際Ⅰ 第 9 回：乳児（0・1 歳児）の指導計画立案の実際Ⅱ 第 10 回：乳児と 3 歳未満児の指導計画立案の実際Ⅰ 第 11 回：乳児と 3 歳未満児の指導計画立案の実際Ⅱ 第 12 回：幼児の指導計画立案の実際Ⅰ 第 13 回：幼児の指導計画立案の実際Ⅱ 第 14 回：小学校との接続期（5 歳児）の指導計画立案の実際 第 15 回：まとめ			
テキスト	戸田雅美 西本望 編著『教育課程・保育計画総論：乳幼児期から小学校教育へつながる計画』建帛社 2023 年 ISBN：978-4-7679-5135-5		
参考書 参考資料等	適宜資料を配布する。		
学生に対する評価	提出物（30％）、試験（70％）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（健康）		単位数： 1 単位	担当教員：伊藤 能之
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 領域「健康」について、そのねらいと内容を理解する。 2. 子どもの健康な育ちを支えるための保育者の役割について理解する。 3. 健康に関する現代の課題をとらえ、健康に過ごすための保育実践について考えることができる。		
授業の概要	領域「健康」のねらいと内容について理解を深める。乳幼児期の健康にかかわる生活習慣や心身の発育・発達の特徴、運動能力の発達過程などを中心に、基本的知識を習得し、心と体の調和のとれた生活を営むための保育者の役割について学ぶ。		
授業計画			
第 1 回：保育内容領域の中の「健康」 第 2 回：保育内容領域「健康」を理解する 第 3 回：領域「健康」のねらいと内容 第 4 回：健康の考え方と取り組みの推進 第 5 回：乳幼児の健康と現代社会 第 6 回：乳幼児の発育・発達 第 7 回：乳幼児の生理機能の発達 第 8 回：乳幼児の運動機能の発達 第 9 回：乳幼児の心の発達 第 10 回：乳幼児の遊び 第 11 回：遊びを豊かにする保育者の役割 第 12 回：幼児の生活スタイル 第 13 回：幼児の生活習慣の自立 第 14 回： 保育における健康 第 15 回： 乳幼児の安全管理と安全教育 定期試験			
テキスト	保育内容 健康 [第 3 版]（北大路書房）		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	定期試験（60％）、レポート課題（10％）、受講態度（30％）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域 (人間関係)		単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美 担当形態：単独 演習
科 目	保育内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 領域「人間関係」について、そのねらいと内容を理解する。 2. 一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういくことを捉え、人とかかわる力を養う保育者の役割について理解する。 3. 幼児が「人とかかわる力」をどのように育んでいくのかを理解し、それを支える保育実践について考えることができる。		
授業の概要	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とかかわりがどのように育っていくのか学ぶ。また、乳幼児の発達の特性を踏まえた、人とかかわりを育てる保育者の役割と援助について学ぶ。 子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、その保育実践について習得する。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、領域「人間関係」とは 第 2 回：子どもの遊びと人間関係 第 3 回：領域「人間関係」のねらいと内容 第 4 回：乳幼児期における人間関係の発達 第 5 回：子どもの人間関係を育てる保育者の役割①事例検討 第 6 回：子どもの人間関係を育てる保育者の役割②グループ討議 第 7 回：人とかかわりを育てる保育教材 第 8 回：子どもの人間関係を育む保育教材①絵本 第 9 回：子どもの人間関係を育む保育教材②指人形 第 10 回：子どもの人間関係を育む保育実践 第 11 回：子どもを取り巻く地域や高齢者との交流 第 12 回：保育者同士の人間関係 第 13 回：保育者と保護者の人間関係 第 14 回：保護者へのかかわり 第 15 回：まとめ 重要事項の整理と確認 定期試験			
テキスト	領域「人間関係」乳児期にふさわしい生活で育む ミネルヴァ 書房		
参考書 参考資料等	五十嵐 淳子「多文化理解・国際理解 多様性の尊重を目指して」 大学図書出版 2019 年		
学生に対する評価	定期試験（60％）、課題提出（20％）、授業態度（20％）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（環境）		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の基本は、環境を通して行われるものであること、また、その他 4 つの領域と相互に関連し合って子どもの健やかな成長発達が助長されていくことへの理解を深める。 子ども達を取り巻く環境（主に保育所）と主体的にかかわりたくなるような望ましい環境について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。		
授業の概要	環境を通して行う保育の重要性について十分な理解ができるよう事例や資料を通して学んでいく。また、子どもの生活を豊かにするための環境構成や具体的な支援方法について考察していく。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス／領域「環境」のねらいと内容（保育所保育指針）			
第 2 回：子どもを取り巻く保育環境			
第 3 回：保育所の生活と環境（乳児）			
第 4 回：保育所の生活と環境（1 歳以上 3 歳未満児）			
第 5 回：保育所の生活と環境（3 歳以上児）			
第 6 回：乳児期の基礎を培う保育環境			
第 7 回：保育所の子どもと環境とのかかわり（人的、物的）			
第 8 回：保育所の子どもと生活①（文字や形、数とのかかわり）			
第 9 回：保育所の子どもと生活②（季節ごとの自然とのかかわり）			
第 10 回：保育所の子どもと生活③（行事や地域とのかかわり）			
第 11 回：子どもの健康支援・安全管理と環境			
第 12 回：保育所におけるアレルギー対応と環境			
第 13 回：保育所における食育推進と環境			
第 14 回：領域「環境」を通して行う保育とは			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	保育実践に生かす保育内容「環境」（教育情報出版） 教材で楽しむ実践と方法—豊かな感性の育成に向けて—（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 保育内容領域（言葉）			単位数： 1 単位	担当教員：福田 光弘
				授業形態：単独 演習
科 目		保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ		・保育内容領域「言葉」のねらいと内容を子どもの姿と関連付けて理解する。 ・乳幼児期の言語的発達を理解し述べることができる。 ・乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする教材や児童文化財の意義を理解し、基本的な知識を習得し実践できる。		
授業の概要		領域「言葉」の基礎となる考え方を理解し、言葉のもつ意義と機能、言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財の活用の視点から、どのようにしたら乳幼児に豊かな言葉や表現を育むことができるかを学習し、グループ討議、実践的ワークを通して実践力を身につける。		
授業計画				
第 1 回：言葉のもつ意義と機能 第 2 回：乳児期における言葉の発達 第 3 回：幼児期における言葉の発達 第 4 回：保育内容領域「言葉」と他領域との関わり 第 5 回：乳児保育 3 つの視点と 5 領域における言葉 第 6 回：生活と遊びの中の言葉 第 7 回：児童文化財と言葉①（絵本、紙芝居） 第 8 回：児童文化財と言葉②（昔話、ストーリーテリング） 第 9 回：児童文化財と言葉③（ペープサート、パネルシアター、人形劇） 第 10 回：言葉を豊かにする保育環境 第 11 回：文字との出会い 第 12 回：言葉のかかわりに配慮を要する子ども 第 13 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画① 第 14 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画② 第 15 回：まとめ これまでの学びを振り返る 定期試験				
テキスト		子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等		文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価		提出物（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（表現）		単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育における「表現」とはどのようなものであるのか学習する。また、一人ひとりの子どもの豊かな表現を育てていくために保育者としてどのように援助すればよいのか理解を深める。		
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容をふまえ、乳幼児の表現を育む保育者の援助について考えていく。また、実践事例の検討を通して指導場面を具体的にイメージし、保育を構想する方法を身に付ける。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 子どもの表現活動について			
第 2 回：歌遊び①手遊び			
第 3 回：リズム遊び ①基本動作			
第 4 回：リズム遊び ②基本動作の発展			
第 5 回：歌遊び②わらべ歌			
第 6 回：身近な素材を使った表現活動①ビニール袋			
第 7 回：身近な素材を使った表現活動②ハンカチ			
第 8 回：歌遊び③童謡			
第 9 回：模倣遊び①様々な動きの体験			
第 10 回：模倣遊び②創作			
第 11 回：模倣遊び③発表			
第 12 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動①創作（大枠）			
第 13 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動②創作（細部）			
第 14 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動③創作（調整）			
第 15 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動④発表			
定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現－日々わくわくを生きる子どもの表現－（わかば社） 文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 乳児保育Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員：竹澤 宏美 授業形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・乳児保育の意義・目標と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働、保護者、地域の関連機関との連携について理解する。		
授業の概要	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷を踏まえ、保育所、乳児院などにおけるさまざまな乳児保育の現状を知る。また、乳児の発育・発達の過程や特性を学び、「乳児保育の基礎となる考え方」についての理解を深めていく。乳児保育における職員間、保護者、関連機関との連携について理解し、一人ひとりが大切に育まれる保育を探究する保育者の基盤づくりをする。		
授業計画			
第1回：乳児保育の意義・目的 第2回：乳児保育の役割と機能 第3回：乳児保育における養護と教育 第4回：乳児に関わる制度と法律 第5回：乳児保育における連携と協働 第6回：保育所以外の福祉施設（乳児院等）における乳児保育 第7回：保育所保育指針①乳児保育 第8回：保育所保育指針②1歳以上3歳未満児の保育の「ねらい及び内容」 第9回：保育所保育指針③3歳児以上に移行する時期の保育 第10回：3歳未満児の発育・発達 第11回：3歳未満児の生活と環境 第12回：3歳未満時の遊びと環境 第13回：乳児保育における計画・記録・評価 第14回：乳児保育における子育て支援と家庭との連携 第15回：乳児保育の振り返りとまとめ 定期試験			
テキスト	志村聡子『はじめて学ぶ乳児保育』 最新版 （同文書院）		
参考書 参考資料等	厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）		

授業科目名： 乳児保育Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美 授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・3 歳未満児の発達を踏まえた援助や関わり方について理解する。 ・乳児保育における保育計画の作成について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する		
授業の概要	3 歳未満児の発育・発達の特徴を理解し具体的な援助や関わり方について実践的なワークから学ぶ。また、「全体的な計画」を踏まえて、これまで学んだことを活かし一人ひとりが大切に育つことができる保育の計画を作成していく技術を身に付けていく。さらに、保護者や他の関係機関との連携を学び、これからの乳児保育と保育者に求められるものを学ぶ。		
授業計画			
第 1 回：乳児保育の重要性 第 2 回：子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 第 3 回：乳児保育における内容と方法①抱っこ・着脱・排泄・清潔 第 4 回：乳児の保育における内容と方法②調乳・授乳・食事 第 5 回：乳児の保育における内容と方法③睡眠・生活リズム 第 6 回：乳児保育における安全管理と衛生管理 第 7 回：生活を支える保育者の役割 第 8 回：3 歳未満児の生活と遊びの環境と援助 第 9 回：特別な配慮を必要とする子ども 第 10 回：保育の記録と評価 第 11 回：全体的な計画と指導計画 第 12 回：0 歳児保育の計画と援助の実際 第 13 回：1 歳児保育の計画と援助の実際 第 14 回：2 歳児保育の計画と援助の実際 第 15 回：これからの乳児保育に求められるもの 定期試験			
テキスト	志村聡子『はじめて学ぶ乳児保育』 最新版 同文書院		
参考書 参考資料等	吉本和子『乳児保育一人ひとりが大切に育てられるために』エイデル研究所 今井和子『育ちの理解と指導計画』小学館 厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携認定型こども園教育・保育要領』（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40％）、試験（60％）		

授業科目名： 子どもの健康と安全		単位数： 1 単位	担当教員名：福田 光弘 授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・乳幼児の日常生活における養護技術について理解し、手順や注意点について説明できる。 ・乳幼児の事故発生時における応急処置について理解し、手順を説明できる。 ・感染予防の原則を理解し、感染症の集団発生の予防について説明できる。 ・保育における健康安全管理の重要性を理解し、衛生管理について説明できる。 ・障害等を持つ子どもに対する理解を深め、子どもや保護者への基本的な対応について説明できる		
授業の概要	保育者に求められる専門的知識として、子どもの成長発達を理解し保健的な観点で踏まえた知識と養護技術、また、ケガや疾病、感染症等への適切な対応力及び事故や災害等における安全管理能力が求められる。事例や演習を取り入れ保育における養護技術や健康安全管理等についての理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：子どもの健康と保育環境 第 2 回：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理 第 3 回：衛生管理（施設の環境、屋内・屋外の衛生管理） 第 4 回：事故防止および安全対策① 第 5 回：事故防止および安全対策② 第 6 回：危機管理と災害への備え 第 7 回：安全教育 第 8 回：感染症の集団発生の予防 第 9 回：保育における保健的対応の基本的な考え方 第 10 回：3 歳未満児の発達に応じた対応 第 11 回：個別的な配慮を要する子どもへの対応 第 12 回：障害のある子どもへの対応 第 13 回：保育における保健活動の計画および評価 第 14 回：保健活動における職員間の連携・協働と関連機関との連携 第 15 回：まとめ これまでの学びの振り返り 定期試験			
テキスト	小林美由紀編著『子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社		
参考書・ 参考資料等	・厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年度告示） ・保育所における感染症ガイドライン（厚生労働省） https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf ・保育所におけるアレルギーガイドライン（厚生労働省） https://www.mhlw.go.jp/content/000511242.pdf		
学生に対する評価	提出物（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。		

授業科目名：障害児保育		単位数： 2 単位	担当教員：小里 直通
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 障害児保育の理念について学び、障害のある子どもの理解や支援に興味・関心をもつことができる。 2. さまざまな障害について理解し、障害のある子どもやその家族の支援について自分なりに考えて、述べることができる。 3. 障害児保育の現状について説明することができる。		
授業の概要	障害児保育の基礎的な知識を身につけ、その具体的な支援について実践力を習得するために、担当教員による講義、テキストに基づくグループ発表、映像資料やエピソード等を用いた演習等を行う。		
授業計画			
第 1 回：(担当教員)	オリエンテーション・グループ分け <u>第 1 章 障がいのある子どもの保育・教育を支える理念</u> 第 1 節 障がいについての保育者の学び		
第 2 回：(担当教員)	第 2 節 障がい児保育・特別支援教育の歴史的変遷と現状		
第 3 回：(グループ①)	第 3 節 乳幼児期の子どもの発達的特徴と遅れ		
第 4 回：(グループ②)	<u>第 2 章 障がいの理解と発達支援の風景</u> 第 1 節 肢体不自由・重症心身障がいのある子どもの発達支援① (1)肢体不自由とは (3)重症心身障がいとは (4)医療的ケア児		
第 5 回：(グループ③)	第 1 節 肢体不自由・重症心身障がいのある子どもの発達支援② (2)脳性麻痺（まひ）とは		
第 6 回：(グループ④)	第 2 節 知的障がいのある子どもの発達支援		
第 7 回：(グループ⑤)	第 3 節 視覚障がいのある子どもの発達支援		
第 8 回：(グループ⑥)	第 4 節 聴覚障がいのある子どもの発達支援		
第 9 回：(グループ⑦)	第 5 節 言語障がいのある子どもの発達支援		
第 10 回：(グループ⑧)	第 6 節 発達障がいのある子どもの発達支援① (1)発達障がいと「気になる子ども」とは (3)注意欠如多動性障がい・学習障がいがある子どもの発達支援 (4)発達性協調運動障がいがある子どもの発達支援（配付資料）		
第 11 回：(グループ⑨)	第 6 節 発達障がいのある子どもの発達支援② (2)自閉スペクトラム症のある子どもと発達支援		
第 12 回：(グループ⑩)	第 7 節 特別な配慮を要する子どもの発達支援① (1)児童虐待を受けた子どもの理解と発達支援の風景 (2)貧困家庭の子どもの理解と発達支援の風景		
第 13 回：(グループ⑪)	第 7 節 特別な配慮を要する子どもの発達支援② (3)外国にルーツをもつ子どもの理解と発達支援の風景 (4)その他の特別な配慮を要する子どもの発達支援（配付資料）		
第 14 回：(担当教員)	前期のまとめ		
第 15 回：(担当教員)	前期末レポート提出・後期のグループ分け		

授業計画	
第16回：(担当教員)	オリエンテーション・インクルーシブ保育と合理的配慮
第17回：(グループ①)	第3章 障がいのある子どもの保育・教育の実際 第1節 個別の教育支援計画および個別の指導計画
第18回：(グループ②)	第2節 発達を促す生活や遊びの環境
第19回：(グループ③)	第3節 子ども同士のかかわりと育ち合い
第20回：(グループ④)	第4節 障がいのある子どもの健康と安全
第21回：(グループ⑤)	第5節 職員間の連携・協働
第22回：(グループ⑥)	第4章 家庭および関係機関との連携 第1節 保護者や家庭に対する理解と支援
第23回：(グループ⑦)	第2節 関連機関との連携・協働による支援① (1)保健センターを中核とした連携（健診とフォロー） (2)児童発達支援センターを中核とした連携
第24回：(グループ⑧)	第2節 関連機関との連携・協働による支援② (3)特別支援学校、小学校との連携（連携体制・就学相談）
第25回：(グループ⑨)	第5章 障がいのある子どもの保育・教育に関わる現状と課題 第1節 障害のある子どもへの保健・医療・福祉・教育における現状と課題① (1)保健・医療における現状と課題 (2)福祉における現状と課題
第26回：(グループ⑩)	第1節 障害のある子どもへの保健・医療・福祉・教育における現状と課題② (3)教育における現状と課題
第27回：(グループ⑪)	第2節 支援の場の広がりとなつがり
第28回：(担当教員)	障害児保育に関する専門性
第29回：(担当教員)	障害児保育の実際
第30回：(担当教員)	定期試験・1年のまとめ
テキスト	障がいのある子どもの保育・教育の実践（学文社）
参考書 参考資料等	よくわかる障害児保育 第2版（ミネルヴァ書房） 新基本保育シリーズ17 障害児保育（中央法規出版） 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
学生に対する評価	演習の参加状況（10%） 出席及びリアクションペーパーの記述内容（20%） 前期末レポート（30%） 期末試験（40%）

8. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員：森川 みゆき 授業形態：複数 実習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	・教育実習について理論的な学びを踏まえ、幼児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。 ・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 教育実習の意義を理解する。 (2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。 2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実に即して記録することができる。 3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。 4) 幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。		
授業方法			
【学外実習】教育実習の目的 ①幼児との生活を通して、幼児を理解する。 ②授業で学んだことと実践との統合を図る。 ③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。 ④具体的な指導技術を習得する。 ⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。 以上の項目について 2 年次前期に 2 週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2 年次後期に 2 週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。 原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。			

【事前指導】 実習を円滑に行うために以下の通り事前指導を行う。
【授業計画】
前期（1年次）
第1回：幼稚園教育の現状と課題 第2回：教育実習の概要 第3回：教育実習の目的と方法 第4回：教育実習の内容とねらい 第5回：幼児理解（ビデオより現場の観察と考察①） 第6回：幼稚園の教育課程と指導計画 第7回：実習記録の目的と必要性 第8回：指導案の目的と指導案作成のプロセス 第9回：見学、観察実習のねらいと方法 第10回：参加実習のねらいと方法 第11回：責任（部分・全日）実習のねらいと方法 第12回：オリエンテーションの方法と手続き 第13回：実習中の心構えと手続きについて 第14回：実習中に予想される問題について 第15回：幼稚園の実際：先輩教諭による講演「幼稚園教諭の一日」・まとめ
後期（1年次）
第1回：実習に向けての心構え 第2回：オリエンテーションの準備 第3回：実習に必要となる具体的な書類、持ち物等の準備 第4回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方① 第5回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方② 第6回：保育観察の方法（実例を通して―①） 第7回：保育観察の方法（実例を通して―②） 第8回：実習日誌の意義と必要性 第9回：実習日誌の具体的な取り方① 第10回：実習日誌の具体的な取り方② 第11回：実習日誌の具体的な取り方③ 第12回：指導案の意義と実際 第13回：指導案の立て方（部分） 第14回：指導案の立て方（全日） 第15回：教育実習を終えた先輩（2年生）の実習体験談を聞く→グループ討論 試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 実習に役立つ保育技術-保育実技指導のポイント-〔改訂版〕（創成社） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考書資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%）から総合的に評価

9. 保育実習

授業科目名： 保育実習指導Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習の意義や目的について理解する。また、実習をするために必要な知識や技術を習得し、自己課題を明確にすることを目標とする。		
授業の概要	保育実習の意義や目的について学ぶ。また、児童福祉施設の種別、それぞれの施設の機能や役割についてなど総合的に理解する。さらに、実習生としてのふさわしい心構えや態度、保育士としての職務内容、専門性について理解を深めていく。		
授業計画			
第1回：授業ガイダンス、保育実習Ⅰの意義と目的			
第2回：保育実習の種類／保育所について			
第3回：保育実習の方法及び内容			
第4回：保育実習の心構え／映像資料①			
第5回：保育実習の実際／映像資料②			
第6回：保育所のデイリープログラム			
第7回：プライバシーの保護と守秘義務（職業倫理について理解する）			
第8回：ボランティア活動について／実習日誌の意義			
第9回：実習日誌の書き方①基本的な日誌記録のあり方			
第10回：実習日誌の書き方②多様な日誌記録のあり方			
第11回：指導案の書き方			
第12回：自己課題の発見／実習書類準備（実習目標を明らかにする）			
第13回：実習学内オリエンテーション／実習書類準備（実習先への提出書類など）			
第14回：実習先オリエンテーションについて			
第15回：まとめ			

授業計画	
第 16 回：授業ガイダンス、施設実習の意義と目的 第 17 回：施設実習の種類／児童福祉施設について 第 18 回：施設実習の方法及び内容 第 19 回：施設実習の心構え／映像資料① 第 20 回：施設実習の実際／映像資料② 第 21 回：施設実習の基本的理解／施設保育士としてのかかわり 第 22 回：児童福祉施設のデイリープログラム 第 23 回：プライバシーの保護と守秘義務 第 24 回：ボランティア活動について 第 25 回：実習日誌の意義／実習日誌の書き方① 第 26 回：実習日誌の書き方② 第 27 回：指導案の書き方 第 28 回：自己課題の発見（保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善） 第 29 回：実習学内オリエンテーション／実習事前指導 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	保育所保育指針（平成 29 年度告示） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成 29 年度告示） 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 施設実習ガイドブック（榊みらい）
参考書・ 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布
学生に対する評価	試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）の総合評価

2年生

1. 教養科目

授業科目名： 情報機器の操作	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：遠山 龍一
			授業形態：単独 演習
科 目	教養科目-情報機器の操作		
授業の到達目標 及びテーマ	高度情報通信社会において必要なメディアリテラシーを身に付け、パソコンの基本操作を習得する。		
授業の概要	メディアリテラシーについて理解し、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本的な操作方法を実習する。		
授業計画			
第 1 回： 年間授業計画・コンピュータ教室での使用方法・タイピング練習			
第 2 回： ワード①かんたんなおたよりを作成しよう 1			
第 3 回： ワード②かんたんなおたよりを作成しよう 2			
第 4 回： ワード③かんたんなおたよりを作成しよう 3			
第 5 回： ワード④図表が入ったおたよりを作成しよう 1			
第 6 回： ワード⑤図表が入ったおたよりを作成しよう 2			
第 7 回： ワード⑥図表が入ったおたよりを作成しよう 3			
第 8 回： ワード⑦図表が入ったおたよりを完成させよう			
第 9 回： ワード⑧図表が入ったおたよりの課題を時間内に完成させよう			
第 10 回： エクセル① 作表とかんたんな表計算をしよう 1			
第 11 回： エクセル② 作表とかんたんな表計算をしよう 2			
第 12 回： エクセル③ 作表とかんたんな表計算をしよう 3			
第 13 回： エクセル④ 作表とかんたんな表計算をしよう 4			
第 14 回： エクセル⑤ 作表とかんたんな表計算をしよう 5			
第 15 回： まとめ			

授業計画	
第 16 回： プレゼンテーション① スライドの作成をしよう① 第 17 回： プレゼンテーション② スライドの作成をしよう② 第 18 回： プレゼンテーション③ 発表するテーマを決めよう 第 19 回： プレゼンテーション④ 課題のスライドを作成しよう 1 第 20 回： プレゼンテーション⑤ 課題のスライドを作成しよう 2 第 21 回： プレゼンテーション⑥ 課題のスライドを作成しよう 3 第 22 回： プレゼンテーション⑦ 課題のスライドを作成しよう 4 第 23 回： プレゼンテーション⑧ 発表 1 第 24 回： プレゼンテーション⑨ 発表 2 第 25 回： エクセル⑥ グラフと計算式を活用しよう 1 第 26 回： エクセル⑦ グラフと計算式を活用しよう 2 第 27 回： エクセル⑧ グラフと計算式を活用しよう 3 第 28 回： エクセル⑨ グラフと計算式を活用しよう 4 第 29 回： エクセル⑩ 表とグラフの課題を時間内に完成させよう 第 30 回： 情報モラルについて 定期試験	
テキスト	保育者のためのパソコン講座（萌文書林）
参考書 参考資料等	
学生に対する評価	授業中の提出物・課題・実技試験（70%）と発表（20%）出席(10%)での総合評価

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと健康	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：伊藤 能之 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 領域「健康」のねらいや内容について理解を深める。 2. 健康の基礎となる生活習慣を形成するための援助のあり方について理解する。 3. 子どもの健康な育ちを支える具体的な方法を習得する。		
授業の概要	乳幼児の心身の健康、基本的な生活習慣を育てるための方法について事例や情報機器を用いて学ぶ。また、健康な生活を営むための保育者の役割などについて、実践的な内容を通して習得する。		
授業計画			
第1回：子どもにとっての「健康」とは 第2回：子どもの生活リズム 第3回：子どもの生活習慣 第4回：子どもにとって体を動かすこととは 第5回：行事を通して育てる健康（1）行事について 第6回：行事を通して育てる健康（2）運動会 第7回：行事を通して育てる健康（3）遠足、宿泊保育 第8回：健康・安全な生活とは 第9回：乳幼児の基本的な生活習慣の形成 第10回：安全な保育環境 第11回：保育における食事（1）食育について 第12回：保育における食事（2）食育を推進する教材 第13回：保育における食事（3）食育の展開 第14回：運動遊びと環境 第15回：子どもの健康をめぐる課題 定期試験			
テキスト	保育内容「健康」大学図書出版		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（10%）、受講態度（30%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと音楽B	教員免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山浦 勝雄
			授業形態： 複数 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。ピアノ伴奏法の基礎知識を学ぶことによって効果的な活用方法を理解し保育現場で実践できる能力を培い、乳幼児の音楽活動に役立てることができる。領域「表現」において、子どもが経験し、身につけていく内容の関連性及び小学校の教科書等とのつながりを理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。コードネームを理解し、基本的なコードの使い方を習得し、子どもの歌の旋律に伴奏をつける技術を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に示された育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。保育現場における音楽指導上必要なコードネームによるピアノ伴奏法を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力や方法を身につける。		
授業計画			
第 1 回：音階のしくみ 鍵盤図と五線譜の関係 和音について			
第 2 回：主要 3 和音 CFG コード			
第 3 回：ハ長調の主要 3 和音 CFGG ₇ コード			
第 4 回：CFGG ₇ コードの曲を弾こう			
第 5 回：イ短調の主要 3 和音 AmDmEE ₇ コード			
第 6 回：イ短調 AmDmEE ₇ コードの曲を弾こう			
第 7 回：CFG ₇ AmDmEmコードの曲を弾こう			
第 8 回：さまざまな伴奏パターンを学ぶ			
第 9 回：ト長調の主要 3 和音 GCD コード			
第 10 回：ヘ長調の主要 3 和音 FB _b C コード			
第 11 回：左手伴奏を自分でつける			
第 12 回：両手伴奏を自分でつける&弾き歌い			
第 13 回：さまざまな伴奏パターンを試す①単音（三和音の構成音）三和音そのまま			
第 14 回：さまざまな伴奏パターンを試す②三和音の使い方をアレンジ（分数、アルペジオ等）			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	プリント教材		
参考書・ 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（60％）授業態度（20％）小テスト（20％）		

授業科目名： 子どもと表現A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員： 山浦 勝雄・竹澤 宏美 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について、他領域と関連して理解する。生活における音楽や、幼児と音楽とのかかわりについて理解する。人的環境である保育者の役割を知り、そのために必要な音楽的基礎技能と指導力を身につける。		
授業の概要	幼児の音楽的発達・行動の特徴などを学ぶ。指導方法を具体的に理解するために、映像教材の視聴を取り入れる。保育現場での実践力を向上させるため、ロールプレイ、個人及びグループ発表を行う。		
授業計画			
第 1 回：領域「表現」について 第 2 回：保育における音楽教材①（教材の捉え方） 第 3 回：保育における音楽教材②（視聴覚教材の活用法） 第 4 回：保育における音楽教材③（「ペープサート」等の製作、発表） 第 5 回：生活と音楽①（音環境） 第 6 回：生活と音楽②（サウンド・スケープ） 第 7 回：生活と音楽③（音を絵で表現する活動） 第 8 回：楽器指導における基礎技能①（簡易楽器の奏法） 第 9 回：楽器指導における基礎技能②（手作り楽器の製作） 第 10 回：楽器指導における基礎技能③（合奏指導法） 第 11 回：主体的表現活動のための保育者の援助①（ごっこ遊び） 第 12 回：主体的表現活動のための保育者の援助②（劇遊びの指導法） 第 13 回：幼児の表現活動と行事（保育における行事の種類） 第 14 回：幼児の表現活動と行事（行事における音楽の扱い方） 第 15 回：まとめ－模擬指導			
テキスト	「幼児のための音楽教育」教育芸術社 プリント教材		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、そのほか適宜資料を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（50%）、模擬指導及び実技発表（50%）		

授業科目名： 子どもと表現B	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：堀内 有子
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者に必要な造形表現の基礎を身につけ、発達段階や活動に合わせて適材を選べるようになる。自らの様々な造形活動を通して「造形嫌い」と「作る楽しさ」について理解し、子どもたちの楽しい造形活動を支えられるようになる。乳幼児の造形活動で使われることの多い表現技法や素材の特性について指導者としての立場から検証し材料の工夫や指導上の留意点などを導きだせるようになる。		
授業の概要	領域「表現」の中で造形が果たす役割について学ぶ。造形表現の技術演習を行う。その中で、幼児の造形活動で使われることの多い表現方法や素材について、教材研究の視点を持って検証し、その指導について学びながら、子どもたちの楽しい造形活動を支えられる保育者となるための造形表現の基礎を身につける。		
授業計画			
第1回：幼児の遊びに活用できる折りがみについて 第2回：色について 第3回：折染とマーブリング 第4回：パステルとクレヨンとクレパス・・・スクラッチ 第5回：工作について 第6回：切り紙 第7回：立体カードの仕組み 第8回：バースデーカード 第9回：変身衣装作り 第10回：粘土について 第11回：油粘土 第12回：軽量粘土で作るスイーツ 第13回：段ボール工作①工作の構想・・・ミニチュアハウス 第14回：段ボール工作②工作の用具と環境・・・ミニチュアハウス 第15回：作る楽しさについて 定期試験			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	「保育をひらく造形表現」萌文書林、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	課題提出（85%）、受講態度（15%）による総合評価		

授業科目名： 保育内容(健康)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：伊藤 能之
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 領域「健康」のねらいや内容について理解を深める。 2. 子どもの心身の発育・発達を理解した保育構想ができる。 3. 子どもの健康な育ちを支える保育を展開していくために適切な指導法を身につける。		
授業の概要	子どもの健康に関して模擬保育やグループ討議、情報機器などを活用し、「健康」の視点から保育を展開していくための知識および技能について学ぶ。また、模擬保育の実践や教材研究を通して実践力を身につける。		
授業計画			
第1回：領域「健康」が目指すもの 第2回：領域「健康」と小学校の教科等への接続 第3回：保健だより（1）保健だよりとは 第4回：保健だより（2）作成 第5回：保健だより（3）振り返り 第6回：保育における散歩（1）事例から学ぶ 第7回：保育における散歩（2）指導計画立案 第8回：保育における散歩（3）散歩マップ作成 第9回：基本的生活習慣の確立について 第10回：生活習慣を確立するために（1）指導計画について 第11回：生活習慣を確立するために（2）指導計画立案 第12回：生活習慣を確立するために（3）模擬保育① 第13回：生活習慣を確立するために（4）模擬保育② 第14回：生活習慣を確立するために（5）振り返り 第15回：領域「健康」の指導法に関する理解とまとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと健康 改訂版（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（10%）、受講態度（30%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容(環境)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	身近な環境へ主体的に関わるための具体的な指導場面や留意点について実践例や映像資料などを通して理解し、保育を構想する力を身につける。自然環境や物的環境などとの豊かな関わりを育むための教材の適切な取り入れ方について、模擬保育を実践し、振り返りを通して改善点を見つけ具体的な活用方法を理解する。 保育現場で使用される情報機器（タブレットなど）の具体的な導入の仕方、適切かつ効果的な使用方法について実践を通して理解を深める。 保育者としての役割を考え、子どもの意欲を高める保育の指導法の計画が立案、実践、再構成できるようになる。		
授業の概要	領域「環境」のねらいや内容に関連付けながら幼児と環境との関わりについて理解を深める。子どもの興味や核心を引き出す指導計画を立案するなど、具体的な場面を想定した保育を構想する力を育み、また実践を通して保育教材の効果的な実演技術など、保育者として必要な実践力を身につける。また個人で保育を行う場面での方法、協働しながら保育を行う方法など保育者としての役割について理解を深める。 情報機器を使用し、適切かつ具体的な活用方法について実践を通して学ぶ。環境を通して行なう保育とはどのようなことか、様々な取り組みから理解を深め、指導力を身につける。		
授業計画			
第 1 回：幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらい及び内容について			
第 2 回：身近な環境の中での主体的な子どもの遊び (子どもの喜ぶ遊びや活動はどのような環境の中から生まれるのかを子どもの実態や事例に沿ってディスカッションしながら遊びのガイドブックを作成する)			
第 3 回：固定遊具・移動遊具の園内環境について (固定遊具や移動遊具の配置及びそれらの遊具の教育的意義について知り、環境構成の在り方を学ぶ)			
第 4 回：自然・植物を取り入れた保育の実際①【指導計画の立案】			
第 5 回：自然・植物を取り入れた保育の実際②【模擬保育】 (自然物（葉や実など）を使用した製作や作った物を使っの遊びの実践)			
第 6 回：自然・植物を取り入れた保育の実際③【振り返り】 (模擬保育の振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける)			
第 7 回：飼育物などに触れる保育の実際 (園で飼育している小動物や栽培している花などを安全に飼育栽培する方法などについて、子どもが理解しやすいポスターを作成する。)			
第 8 回：文字や標識、数量や図形との関わり (子どもの周りにあるものの教材を作成し、それぞれの違いに気づけるような保育の実践を行う)			

第 9 回：子どもの生活と行事との関わり （園内外の子どもにとって身近で親しみのある行事についてディスカッションし、行事ごとの説明資料を作成する） 第 10 回：情報機器の操作①【デジタルカメラなどを使用した写真撮影・発表】 （「私の好きな○○」のテーマに沿った写真を 10 枚撮影し、プレゼンテーションを行う） 第 11 回：情報機器の操作②【デジタル紙芝居の作成・発表】 （子ども向けソフトを使用して紙芝居を作成、読み聞かせを実施する） 第 12 回：身近な社会とのかかわり【園外保育の環境】 （子どもが訪問可能な施設、また園外保育が可能な施設の特性や役割について理解し、事前調査を行った上でガイドブックを作成、園外保育に繋げていく方法を学ぶ） 第 13 回：安全な保育環境の実際①【指導計画の立案・実践準備】 （事故や安全に関する具体的な事例について考え、安全な保育を実践するための導入方法についてグループごとに討議し合い、指導案を立案、実践準備を行う） 第 14 回：安全な保育環境の実際②【模擬保育】 （グループごとに模擬保育を実践し、終了後に振り返りを実施、改善の視点を身につける） 第 15 回：まとめ【環境を通して行う保育と保育者としての役割】 定期試験	
テキスト	保育実践を生かす保育内容 「環境」（教育情報出版） 教材で楽しむ実践と方法—豊かな感性の育成に向けて—（大学図書出版）
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	試験（50%）、課題提出・発表（40%）、受講態度（10%）の総合評価

授業科目名： 保育内容（表現） の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について理解をしたうえで、領域「表現」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想し、実践する力を身につける。		
授業の概要	子どもがより豊かに表現活動を楽しむのに保育者としてどのような指導、援助が必要からあらゆる場면을想定して計画し、実践する。		
授業計画			
第 1 回：領域「表現」について 第 2 回：指導案の書き方 第 3 回：造形表現の実践について（ごっこ遊び） 第 4 回：指導案作成①（個別） 第 5 回：指導案作成②（グループ） 第 6 回：表現活動に向けた準備（ごっこ遊び） 第 7 回：模擬保育①（ごっこ遊び） 第 8 回：模擬保育②（ごっこ遊び） 第 9 回：模擬保育③（ごっこ遊び） 第 10 回：身体表現の実践について（創作ダンス） 第 11 回：グループワーク①（ダンス創作：大枠） 第 12 回：グループワーク②（ダンス創作：細部） 第 13 回：グループワーク③（指導案作成） 第 14 回：模擬保育④（創作ダンス） 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 子ども社会学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域の連携及び学校安全の対応を含む。）		
授業の到達目標 及びテーマ	変わりゆく社会の状況を理解し学校教育への影響や課題及び対応策について理解する。学校と行政機関との連携、協働のあり方や重要性について学ぶ。学校や教育行政機関の目的やその現実のための学校経営の姿勢を理解し、開かれた学校づくりの必要性和課題、安全教育の重要性について基礎的な知識を身に付ける。		
授業の概要	子どもを取り巻く現代社会の課題を踏まえ、子どもの指導上の課題について把握する。学校と地域との連携、協働のあり方を事例を通して理解する。学校の教育活動の流れや学習評価についての基礎的な理論を学ぶ。学校の危機管理体制や事故対応などについての具体的な取り組みにも触れる。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、子どもと社会について 第 2 回：諸外国の教育改革の動向 第 3 回：子どもを取り巻く学校の現状 第 4 回：子どもの生活の変容について～映像を通して考える～ 第 5 回：地域の連携・協働による学校教育活動の事例 第 6 回：地域に開かれた学校を目指した事例 第 7 回：学校の教育活動と年間の流れ 第 8 回：学校評価と PDCA サイクル 第 9 回：学校における安全管理と危機管理 第 10 回：教職員と外部の関係機関との連携のあり方 第 11 回：学級経営と教師の役割 第 12 回：生活安全、交通安全、災害安全、を踏まえた安全上の課題 第 13 回：事故や災害に対する学校の危機管理体制のあり方と対応策 第 14 回：地域との連携と協働の意義と方法～事例を通して映像から学ぶ～ 第 15 回：まとめ～これからの学校の教育指導と対応策～ 定期試験			
テキスト	五十嵐 淳子「海外研修ハンドブック」大学図書出版 五十嵐 淳子「多様性の尊重からみる多文化理解・異文化理解」 ISBN 978-4-909655-59-2 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、受講態度（10％）、課題提出（10％）、発表（50％）		

授業科目名： 教育・保育の心理学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：早川 貴子
			授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの心身の発達の基礎及び学習の過程を学ぶと共に、保育実践に関わる心理学の知識を習得する。具体的には、乳幼児・児童期・青年期における運動、言語、認知、社会性の発達について理解する。また、学習に関わる諸理論について理解を深め、学習活動を支える指導のための基礎的な考え方を理解できるようにする。		
授業の概要	生涯発達の観点から乳幼児・児童・青年期・の心身の発達的特徴について講義する。また、学習の過程に関する基礎的な知識を身につけ、学習活動を支える指導の基礎となる知識の習得を目指す。		
授業計画			
第 1 回： 教育・保育の心理学とは何か（目的と意義） 第 2 回： 発達とは何か（概論及び代表的理論の紹介） 第 3 回： 乳幼児期・児童期・青年期における心身の発達的特徴について①運動発達 第 4 回： 乳幼児期・児童期・青年期における心身の発達的特徴について②認知発達 第 5 回： 乳幼児期・児童期・青年期における心身の発達的特徴について③言語発達 第 6 回： 乳幼児期・児童期・青年期における心身の発達的特徴について④社会性の発達① 第 7 回： 乳幼児期・児童期・青年期における心身の発達的特徴について⑤社会性の発達② 第 8 回： 学習行動の基礎とその理論 第 9 回： 学習行動を支える心理学① 第 10 回： 学習行動を支える心理学② 第 11 回： 学習の動機づけ 第 12 回： 学習に基づく集団づくり 第 13 回： 学習評価 第 14 回： 保育実践における発達の捉え方と適切な援助方法について① 第 15 回： 保育実践における発達の捉え方と適切な援助方法について② 定期試験			
テキスト			
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、		
学生に対する評価	定期試験（80%）、受講態度・課題提出（20%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子
			授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	現代の特別支援教育が抱える諸問題について理解することを目的とする。現代の特別支援教育が抱える課題について事例を交えながら理解を深め、説明することができる。特別に支援が必要な子どもや児童の発達の特性について理解する。特別な支援を必要とする子どもの支援方法について理解する。		
授業の概要	特別支援教育の基礎知識と考え方を踏まえ、現代社会における教育のあり方や特別な支援が必要な子どもに対しての学級担任の役割や支援方法に対する理解を深め、教育の質ということに視点を置いた授業を行う。支援が必要な子どもに対しての支援方法に対する理解を深め、特別な教育的ニーズにある子どもの状況を知り支援方法を学ぶ。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション～インクルーシブ教育とは～ 第 2 回：発達障害、軽度知的障害の幼児、児童の支援 第 3 回：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由などの様々な障害について 第 4 回：気になる子ども・児童への支援方法～映像を通して～ 第 5 回：進級による指導と自立行動 第 6 回：特別な支援を必要とする子どもの学習困難と生活困難について 第 7 回：インクルーシブ教育と統合教育 第 8 回：特別な支援が必要な子どもへの支援方法の実際～事例を通して学ぶ～ 第 9 回：特別支援教育における個別指導計画の立案 第 10 回：特別支援教育における個別教育支援計画の立案 第 11 回：特別な教育的ニーズが必要な子どもへの支援 第 12 回：子どもの貧困の問題について考えるグループ活動を通して～ 第 13 回：家庭と連携、地域との連携～特別支援教育のコーディネーター、関係機関との連携～ 第 14 回：外国籍の子どもの支援の実際 第 15 回：現代の特別支援教育の問題と課題 定期試験			
テキスト	著者：五十嵐淳子 「国際理解と教育」 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（50%）、課題（10%）、受講態度（10%）発表（30%）		

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児教育方法論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：田口 賢太郎
			授業形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	これから社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な方法を理解する。教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。情報機器を活用した効果的な授業や適切な機材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業の概要	本講義は幼児教育・保育の基本的な方法を見つけるため、保育における「ねらい」が果たす役割を知り、また、そのねらいを達成するために必要な保育の方法の基礎を理解する。ついては、保育形態の特質や保育の環境、子どもの発達とそれぞれに応じた遊びとその援助について学ぶ。また保育における ICT の利活用などについても具体的に構想する。		
授業計画			
第 1 回：イントロダクション：講義概要の説明、授業の方法、入門的な保育学方法の話題提示			
第 2 回：保育とは何か？方法を巡って			
第 3 回：保育方法の前提 1 保育のしくみの独自性、「教育」・「授業」との違い			
第 4 回：保育方法の前提 2 「環境」について知る			
第 5 回：保育方法の前提 3 「遊ぶ」を様々な形で捉えなおす			
第 6 回：保育方法の実践 1 集団保育と個別の対応			
第 7 回：保育方法の実践 2 保育形態論			
第 8 回：保育方法の実践 3 年齢とケースに応じた保育のあり方			
第 9 回：保育方法の実践 4 子どもの発達を捉える			
第 10 回：保育方法の実践 5 実践と反省について PDCA サイクル			
第 11 回：保育方法の実践 6 配慮を要する子どもへの保育の事例			
第 12 回：メディアの利用と保育 1 メディア利活用のメリット・デメリット			
第 13 回：メディアの利用と保育 2 メディア利活用の事例研究① アプリ開発			
第 14 回：メディアの活用と保育 3 メディア利活用の事例研究② メディアリテラシー			
第 15 回：まとめ、保育方法という考え方			
定期試験			
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	小テスト（70%）、学習参加態度（20%）、課題提出（10%）を定期試験に替え、総合的に評価する。		

授業科目名： 教育相談	教員免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：早川 貴子
			授業形態：単独 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法		
授業の到達目標 及びテーマ	教育相談の重要性を理解し、教育相談に必要な知識や技術を習得する。 教育相談の役割と特徴を理解し教育相談の方法と基礎理論を学ぶ。子どもや 保護者をめぐる多様な課題を多面的に理解するとともに、適切な支援方法を 理解する。幼児で見られる具体的な問題について知見を深め、特別な配慮が 必要な発達障害等についても理解を深める。		
授業の概要	保育者は子どもたちや保護者・地域からの相談に応じることが求められ ていることを踏まえ、教育相談の意義や目的を理解し、教育相談の知見 から保育の実践者として不可欠な知識、技術について学習する。		
授業計画			
第 1 回：教育相談の在り方			
第 2 回：保育所・幼稚園における教育相談			
第 3 回：乳児期の発達理解と相談・支援			
第 4 回：乳児期・学童期・思春期の発達理解と相談・支援			
第 5 回：保育者への対応			
第 6 回：子育て支援			
第 7 回：発達障害①LD学習障害			
第 8 回：発達障害②ADHD注意欠如多動症 特徴とその支援			
第 9 回：発達障害③自閉スペクトラム症 特徴とその支援			
第 10 回：発達障害を持つ子供の保護者へのかかわり			
第 11 回：子どもの発達とアセスメント			
第 12 回：カウンセリングの基礎理解			
第 13 回：カウンセリングの基本事項			
第 14 回：カウンセリングの技法の概説			
第 15 回：ふかかえりとまとめ			
定期試験			

授業計画	
第 16 回：対人関係のトレーニング①基礎的対人関係とは 第 17 回：対人関係のトレーニング②トレーニングの実践 第 18 回：対人関係のトレーニング③トレーニングの実践 第 19 回：対人関係のトレーニング④トレーニングの実践 第 20 回：保育におけるコンサルテーション 第 21 回：人的資源・社会的資源との連携 第 22 回：保育者の相談活動 第 23 回：教育相談を介した園内・園外との連携 第 24 回：幼児・児童における諸問題①習癖 第 25 回：幼児・児童における諸問題②不登園・いじめ 第 26 回：幼児・児童における諸問題③虐待・ネグレクト 第 27 回：幼児・児童における諸問題④うつ病 第 28 回：事例検討 保護者からの相談①子育ての悩み 第 29 回：事例検討 保護者からの相談②就学に向けて 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	子どもの理解と保育・教育相談（株みらい）
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）から総合的に評価する。

5. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習事前事後指導	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき 授業形態：単独 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育実習の意義や目的について理解し、実習で取り組むべき目標を明確にする。また、実習後の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら保育者として必要な知識や能力を身につける。		
授業の概要	教育実習の事前事後指導を行う。事前指導では、実習に臨むにあたって必要とされる基本的な心構えや態度、実習日誌及び指導案の書き方について理解を深める。事後指導では、実習の振り返りを通して今後の課題を明確化したうえでその克服に向けた行動計画を立てる。		
授業計画			
第 1 回：教育実習の意義と目的 第 2 回：教育実習の基本的事項の理解 第 3 回：教育実習に向けた心構え 第 4 回：実習日誌の意義と目的 第 5 回：実習日誌の書き方 第 6 回：事前指導（実習目標の設定） 第 7 回：事前指導（実習に向けた個別の準備） 第 8 回：指導案の意義と目的 第 9 回：指導案の書き方 第 10 回：事後指導（提出物等のまとめ） 第 11 回：事後指導（実習の振り返り：個別） 第 12 回：事後指導（実習の振り返り：グループワーク） 第 13 回：事後指導（個別課題の設定） 第 14 回：事後指導（今後の活動計画の立案） 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：複数 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	・教育実習について理論的な学びを踏まえ、乳児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。 ・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 教育実習の意義を理解する。 (2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。 2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実に即して記録することができる。 3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。 4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。		
授業方法			
【学外実習】教育実習の目的 ①幼児との生活を通して、幼児を理解する。 ②授業で学んだことと実践との統合を図る。 ③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。 ④具体的な指導技術を習得する。 ⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。 以上の項目について 2 年次前期に 2 週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2 年次後期に 2 週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。 原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。			
【事前、事後指導】 実習を円滑に行うために以下の通り、事前、事後指導を行う。			

【授業計画】
前期（2年次）
第1回：教育実習の要点の確認 第2回：本実習に向けての心構えと準備 第3回：教育実習の理解 第4回：教育実習Ⅰ（本実習）指定された園にて実習（2週間） 第5回：実習を終えて（振り返りが意味すること） 第6回：実習全体の自己評価（個別指導） 第7回：実習の反省と学び① 個々の反省と課題と発見 第8回：実習の反省と学び② 園の役割や教育の特長 第9回：実習の反省と学び③ 子どもとの関わりや保育技術 第10回：実習の反省と学び④ グループでの話し合い 第11回：実習中に多い悩みや疑問について①グループで話し合い 第12回：実習中に多い悩みや疑問について②発表、まとめ 第13回：実習の振り返りと自己評価 第14回：教育実習Ⅱに向けての自己課題について（個人面接） 第15回授業のまとめ
後期（2年次）
第1回：本実習に向けての心構えと準備 第2回：責任実習に向けて（実習時期の園生活について） 第3回：教育実習Ⅱ（本実習）指定された園について実習（2週間） 第4回：実習を終えて（振り返りが意味すること）－（個別指導） 第5回：実習全体の自己評価－（個別指導） 第6回：実習の反省と学び①個人の反省と課題 第7回：実習の反省と学び②実習記録や指導案の書き方の確認（個別の実習記録、指導案を使って） →グループ討議 第8回：実習の反省と学び③子どもとの関わりや保育技術の確認（事例を通して）→グループ討議 第9回：実習の反省と学びのまとめ（グループ毎に発表） 第10回：実習の振り返りと自己評価①ワークシート 第11回：実習の振り返りと自己評価②個人面接 第12回：教育実習Ⅰ、Ⅱ（2回の本実習）を通しての学びと今後の課題 第13回：実習報告会の準備（原稿作り） 第14回：実習報告会（1年生も参加） 第15回：授業のまとめ 定期試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%） から総合的に評価

授業科目名： 保育・教職実践演習	教員の免許取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員：船田 鈴子	
					授業形態：単独 演習	
科 目	教育実践に関する科目					
履修時期	2 年次前後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○	
受講者数	36 人					
教員の連携・協力体制	個人及びGでの模擬授業の実践を取り入れたり、受講者をグループ分けしたりしながら子どもの育ち学びを支援するための知識・技術の向上を目指すために 5 人の教員でグループ毎に研究指導する。					
授業の到達目標 及びテーマ	(1)保育者として身につけるべき資質能力とは何かを明確に理解する。 (2)保育に関する諸問題についてあらゆる角度から分析し、その問題を解決するための方策を提案したり実践する。 1) 保育者として必要な資質能力について理解している。 2) 自らの課題を発見し、解決に向けて行動できる。 3) 保育に関する諸問題を多面的に捉えることができる。 4) 保育者として必要な資質能力（子ども理解・援助方法・子育て支援姿）を習得している					
授業の概要	・ 学生が身に付けた資質能力が保育者として最小限必要な実践的指導力として有機的に統合され、形成されたかについて確認をする。この科目を履修するまでに履修科目の状況を踏まえて、教職に就く者として、の身に付けるべき必要な力や、自己課題を発見し、課題解決に励み、即実践力としての力量を高める。 ・ 保育に関わる諸問題を整理しながら、それぞれの問題への総合的理解を深めるために、受講生全員自らが取り上げる課題について、調査、分析、考察、検討を加え、問題解決能力を身につける、さらに、そのような研究の成果を論文としてまとめたり、研究発表したりすることで、総合的な学びの方法論を習得する。					
補 完 指 導	履修カルテを参照し、個別に補完的な指導を行う。					
授業計画						
第 1 回：保育・教職実践演習の進め方及びこれまでの学修の振り返り 第 2 回：教職の意識と役割及び職務内容についての確認 第 3 回：保育に関わる諸問題の整理（1）ブレイン・ストーミング 第 4 回：保育に関わる諸問題の整理（2）ロールプレイング 第 5 回：保育に関わる諸問題の整理（3）ディスカッション(問題構造の理解) 第 6 回：保育に関わる問題の研究（1）保育に関わる問題を探究することの意義について講義						

授業計画	
第 7 回：保育に関わる問題の研究（2）研究テーマの選定方法について講義・グループ討論 第 8 回：保育に関わる問題の研究（3）研究テーマの類型化毎にグループ討論① 第 9 回：保育に関わる問題の研究（4）研究テーマの類型化毎にグループ討論② 第 10 回：保育者に求められる基本的技能・資質についてのグループ討論 第 11 回：模擬授業 第 12 回：模擬授業 第 13 回：保育者として必要な知識技能の確認 第 14 回：前期のまとめ 第 15 回：前期の当該科目の学修の確認 第 16 回：幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭の生活と実際」 第 17 回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について グループ討論 第 18 回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について グループ討論 第 19 回：幼児理解の確認(1)・・・グループに分かれて事例研究・討論① 第 20 回：幼児理解の確認(2)・・・グループに分かれ事例研究・討論② 第 21 回：幼児理解の確認(3)・・・グループ毎に事例研究の結果についてまとめ発表 第 22 回：幼稚園教諭の職務内容についてグループ討論・ロールプレイング 第 23 回：相談活動（子育て支援）についてグループ討論・ロールプレイング 第 24 回：保育に関連する諸問題から個々の研究テーマを選定し、研究を深め論文ちとしてまとめる 第 25 回：研究発表 第 26 回：研究発表 第 27 回：研究発表 第 28 回：研究発表 第 29 回：研究発表 第 30 回：まとめ・保育・教職実践演習の総合所感	
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書・ 参考資料等	適宜プリントを配布する。
学生に対する評価	受講態度、補完指導、グループ討論、実技指導、授業中に課する各種課題、研究論文の内容および発表等を踏まえ、保育者として最小限必要な資質、能力が身についているかを確認し総合評価を行う。

6. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 社会福祉		単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・ 保育を含む福祉サービスの原理を理解し、説明することができる。 ・ 保育士に必要な社会福祉サービスの体系・内容を理解し、説明することができる。 ・ 地域の状況を理解し、子育てをとおして地域社会に貢献することができる。		
授業の概要	保育の学びの基盤の一つである社会福祉について理解を深めることを目標とする。		
授業計画			
第 1 回：社会福祉とは 第 2 回：社会福祉を取り巻く現状 第 3 回：社会福祉の歴史と背景Ⅰ（日本） 第 4 回：社会福祉の歴史と背景Ⅱ（西欧諸国） 第 5 回：社会保障と社会福祉制度 第 6 回：社会福祉の行財政と実施機関 第 7 回：社会福祉の施設と専門職 第 8 回：子どもと女性の福祉Ⅰ（子ども家庭福祉） 第 9 回：子どもと女性の福祉Ⅱ（母子・女性福祉） 第 10 回：障害者の福祉 第 11 回：高齢者の福祉 第 12 回：生活困窮・貧困と福祉 第 13 回：社会福祉における相談援助 第 14 回：社会福祉における利用者の保護 第 15 回：社会福祉の動向と課題 定期試験（筆記）			
テキスト	小野沢昇・島田肇編著『三訂 はじめて学ぶ社会福祉』建帛社 2024 年 ISBN：978-4-7679-5153-5		
参考書 参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	提出物（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子ども家庭支援論		単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・現代社会における家族の動向と子育て家庭をとりまく社会環境について理解する。 ・子育て家庭への支援サービスの内容を理解し、その存在意義について自分なりの見解をもつ。 ・特別なニーズへの対応と関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。		
授業の概要	家庭、家族の概念や機能、現代の子育て家庭の状況など、家庭支援が必要となっている背景を学ぶ。その上で、家庭支援の社会資源や子育て支援の具体的な取り組みについて学び、具体的な家庭支援の理念や方法について学習する。		
授業計画			
第 1 回：子ども家庭支援の意義と機能 第 2 回：子ども家庭支援の現状と課題 第 3 回：子ども家庭支援の視点 第 4 回：子ども家庭支援のための法制度と社会資源 第 5 回：子育て支援サービスの意義と実際 第 6 回：子育て支援サービスの内容 第 7 回：保育の場における日常的な子ども家庭支援 第 8 回：地域子育て支援活動における子ども家庭支援 第 9 回：対象別にみた子ども家庭支援Ⅰ（障害のある子ども） 第 10 回：対象別にみた子ども家庭支援Ⅱ（要保護児童） 第 11 回：対象別にみた子ども家庭支援Ⅲ（さまざまな形の家庭） 第 12 回 対象別にみた子ども家庭支援Ⅳ（多文化化への対応） 第 13 回：子ども家庭支援のためのソーシャルワーク 第 14 回：子ども家庭支援のためのカウンセリングマインド 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	適宜プリント、資料等を配布する。		
参考書 参考資料等	保育所保育指針		
学生に対する評価	提出物（30％）、試験（70％）から総合的に評価する。		

7. 保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子どもの理解と援助		単位数： 1 単位	担当教員：湊岡 大起
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	① 子どもの理解を基礎とした保育者の基本的姿勢を説明することができる ② 現代における乳幼児期の子どもを取り巻く家庭環境や社会状況を説明できる ③ 子どもの園生活や遊びの姿から、主体性を育む援助を自主的に考察できる ④ 子どもに対する観察と記録、及びカウンセリングマインドについて理解する		
授業の概要	乳幼児期の子どもを理解するために、子どもの発達や学びの過程を捉え、園生活における様々な困難を理解するとともに、子どもの実態に即して保育者がどのように指導・援助していくのか等の対応方法について学ぶ。また、乳幼児期の子どもに関する心理学的知識、及び現代における複雑な家庭環境や社会状況を概観したうえで、参考書や映像、担当教員の実務経験の事例から子どもの主体性を育む保育援助の在り方について具体的に考える。		
授業計画			
第 1 回：授業概要の説明 第 2 回：保育における子どもの理解について 第 3 回：特別なニーズを持つ子どもの理解と援助 第 4 回：子どもを取り巻く環境の変化と理解① 第 5 回：子どもを取り巻く環境の変化と理解② 第 6 回：子ども理解における発達の観点 第 7 回：保育者における観察と記録 第 8 回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド① 第 9 回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド② 第 10 回：製作活動を通して子どもの理解を図る 第 11 回：保育における観察と記録の実際 第 12 回：記録に基づく保育カンファレンス 第 13 回：子育て家庭への理解と援助 第 14 回：子どもを協同的に見ることの意義について考える 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	特に指定なし、授業内にて随時資料を配布する		
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（30%）・試験（70%）から総合的に評価する		

授業科目名： 子どもの保健		単位数： 2 単位	担当教員：皆川　　まり
			授業形態：単独　講義
科　　目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(１) 子どもの心身の健康と保健の意義を理解する。 (２) 子どもの身体発育・発達を理解する。 (３) 子どもの疾病と予防法、適切な対応について理解する。		
授業の概要	子どもの健康と保健について理解する。子どもの発育・発達について理解する。子どもに多い疾患と事故について理解し、その対処方法について学ぶ。		
授業計画			
第１回：子どもの健康と保健の意義 第２回：子どもの発育と発達 第３回：子どもの発育と発達 第４回：子どもの発育と発達 第５回：子どもの発育と発達 第６回：子どもの発育と発達 第７回：健康と病気・異常 第８回：健康と病気・異常 第９回：健康と病気・異常 第１０回：事故と応急処置 第１１回：事故と応急処置 第１２回：感染症と予防接種 第１３回：乳幼児期の病気 第１４回：乳幼児期の病気 第１５回：乳幼児期の病気 定期試験			
テキスト	子どもの保健　診断と治療社		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期試験（50％）、授業態度（50％）からの総合的に評価する。		

8. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 社会的養護Ⅱ		単位数： 2 単位	担当教員：福田 光弘
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	社会的養護を必要とする子どもやその背景について学びを深め、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解しながら、知識と技能についての習得を目指す。		
授業の概要	社会的養護施設における養護の基本的理念を理解し、施設での保育士として求められる具体的な援助方法、内容について演習を通して検討し理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：乳児院における支援の実際			
第 2 回：児童養護施設における支援の実際			
第 3 回：母子生活支援施設における支援の実際			
第 4 回：児童自立支援施設			
第 5 回：児童心理治療施設			
第 6 回：障害児入所施設・障害者支援施設			
第 7 回：児童発達支援センター			
第 8 回：障害福祉サービス事業所			
第 9 回：社会的養護を取り巻く社会の現状			
第 10 回：子ども家庭福祉の見直し			
第 11 回：施設の運営管理と課題			
第 12 回：社会的養護と地域			
第 13 回：新しい社会的養育ビジョン			
第 14 回：社会的養護の課題と展望			
第 15 回：全体まとめ社会的養護とは			
第 14 回：社会的養護に関わる相談援助の知識と技術			
第 15 回：全体まとめ			
定期試験（筆記）			
テキスト	下尾直子・雨宮由紀枝編著『実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅰ・Ⅱ』大学図書出版 2024 年 ISBN978-4-909655-80-6		
参考書 参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	提出物（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子育て支援		単位数： 1 単位	担当教員：竹澤 宏美
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	多様な保育ニーズを踏まえ、子育て支援の制度や体制について理解し、地域に根差した子育て支援のあり方や具体的な実践方法を身につける。		
授業の概要	地域に開かれた子育て支援の実際を知り、子育て支援の活動について理解する。子育て支援の実践例などにふれながら、実際に子育て支援講座を具体的にイメージし、計画・実践を行ったり、子育て支援講座以外の様々子育て支援の方法を模索し、計画・実践を行う。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション／授業ガイダンス 第 2 回：家庭を取り巻く現代社会の状況／子育て支援体制 第 3 回：保育現場における相談援助 第 4 回：特別なニーズのある子どもの特性理解と子育て支援 第 5 回：基本的生活習慣の自立に向けた子育て支援 第 6 回：これからの子育てにおける食の問題と健康 第 7 回：子育て支援の実際（幼稚園・保育所） 第 8 回：園児の保護者とつながる子育て支援（連絡帳の書き方／クラスだよりの作成） 第 9 回：子育て支援の実際（地域の子育て支援センター的役割） 第 10 回：子育て支援と世代間交流の実際 第 11 回：地域とつながる子育て支援（子育て支援新聞の作成） 第 12 回：地域とつながる子育て支援（子育て支援講座の計画と準備） 第 13 回：地域とつながる子育て支援（子育て支援講座の計画と準備） 第 14 回：諸外国における子育て支援の現状／子育て支援における地域の役割と今後の課題 第 15 回：子育て支援講座の実践 定期試験			
テキスト	保育の学びを深める子育て支援の実際（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	適宜プリント配布		
学生に対する評価	定期試験（40％）、発表（40％）、課題提出（10％）、授業態度（10％）		

9. 保育実習

授業科目名： 保育実習Ⅰ		単位数： 4 単位	担当教員：
			石井 久美子
			授業形態：複数 実習
科 目	専門教育科目（保育実習）		
〈保育実習〉			担当：石井 久美子
授業の概要	実習生として必要な基本的な学びを踏まえて、実習において理論と実践の統合を図れるようにする。また、乳幼児にかかわる上で必要な適切かつ具体的な支援方法・態度について学ぶ。		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習についての基本的な理論を踏まえ、保育士として必要な資質、知識や技術を習得することを目的とする。また、保育士としての職務内容・専門性について理解を深める。		
授業計画			
保育実習Ⅰの目的			
①保育の一日の流れを理解し、子どもの名前を覚え参加する。			
②事前に学習した子どもの発達を参考にして、実際に子どもの様子を見て、理解を深める。			
③保育士と子どもの関係を学ぶ。			
④子どもの活動に対して、様々な環境の中で具体的にどんな援助をしているのかを（食事や排泄・遊び・昼寝・着脱・清潔など）学ぶ。			
⑤誉めるとき、叱るとき、集中させるとき、子どもの要求に対するとき等、具体的にどのような態度、表情、言葉を掛けて援助しているかを学ぶ。			
⑥健康・安全・疾病予防への配慮について理解する。			
2 月に保育実習Ⅰ（観察・参加：12 日間、90 時間以上）を指定された園で行う。			
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。			

〈施設実習〉		担当：福田 光弘
授業の概要	実習は保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、障害児入所施設、児童自立支援施設等）で行う。	
授業の到達目標 及びテーマ	保育所とは違う種別の児童福祉施設において実習し、各々の施設の機能や社会的な役割、また施設保育士としての役割を理解する。	
授業計画		
施設実習の目的		
①実習先の施設の役割・機能について理解する。		
②一緒に行動したり業務を手伝ったりして具体的にその施設の児童へのかかわり方について学ぶ。		
③それぞれの施設の児童について正しく理解する。		
④児童福祉施設における保育士の役割・職務内容を理解する。		
⑤職種間連携やチームプレーが児童への育ちへどのようにつながっているのか理解する。		
3月～7月に保育所とは種別の違う施設において（観察、参加及び指導実習：12日間、90時間以上）、指定された園で行う。		
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。		
テキスト	保育所保育指針（平成29年度告示） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年度告示） 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）	
参考書・ 参考資料等	内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成29年度告示） 適宜プリント配布	
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）、実習日誌の記録・実習園の評価（60%）から総合的に評価	

授業科目名： 保育実習Ⅱ		単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 実習
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の実際にかかわりながら、理論と実践の統合を深めていく。子どもの姿や実態、保育者の支援方法などをよく観察し、実際に保育指導計画を立案して責任実習を行う。保育実習Ⅱは原則として保育実習Ⅰとは異なる園で行う。		
授業の概要	保育実習Ⅰでの保育実践経験を踏まえて、更なる知識や技術の向上の努力に努め、保育者に必要な資質や能力の向上を目指す。また、職員間や保護者・地域との連携、子育て支援、安全管理などについて実践的に学び、保育所の多様な機能や役割についての理解を深める。		
授業計画			
保育実習Ⅱの目的			
①子どもの名前を覚え、積極的に遊びの仲間に入り、ありのままの子どもの姿を知り、子どもを理解する。			
②健康、安全のための環境、整備を子どもの具体的な活動（食事、排泄、昼寝、着脱、清潔、遊び）との関連で学ぶ。			
③基本的な生活習慣や社会的習慣の指導について、各々の場面に合った指導の仕方を学び、保育士として必要な資質、能力を養う。			
④園の指導計画（年間計画・月案）などを把握し、やってみたい内容を考えたうえで担当者と相談し、ねらい、場面の構成、留意点を考えて指導案を作成し、実施・評価を受ける（事前に担当者の助言、指導を必ず受ける）。			
⑤施設の許可があれば調理室の実習を行う。			
⑥家庭と地域の実態にふれ、支援や連携のあり方について学ぶ。			
8・9月に保育実習Ⅱ（観察・参加・部分・責任：12日間、90時間以上）を指定された園で行う。			
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。			
テキスト	幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成 29 年度告示） 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）		
参考書・ 参考資料等	内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布		
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）、実習日誌の記録・実習園の評価（60%） から総合的に評価		

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	実習事前指導においては保育実習Ⅰでの反省を踏まえ、保育実習Ⅱでの学びがより深められるよう、指導計画の立案や実践力を高めるための知識や技術の向上に重点を置いて行う。また、実習事後指導では実習を振り返り、自己課題を明確にすること、さらに保育観を確立していくための学びを行っていく。		
授業の概要	既学習を踏まえ保育実践力を培い、保育士の専門性や職業倫理について理解すること、保育について総合的に学ぶことを目的とする。また、事前事後指導を通して自己課題を明確にし、保育に対する認識を深める。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス、保育実習Ⅱの意義と目的			
第 2 回：保育所の多様な機能と役割／保育所における子育て支援と地域との連携			
第 3 回：保育所・幼稚園・小学校との連携			
第 4 回：個別・集団に応じた適切なかかわり／保育者同士の連携			
第 5 回：保育教材の実践技術を生かした保育実践			
第 6 回：保育指導計画の立案・作成①（責任実習・・・主活動）			
第 7 回：保育指導計画の立案・作成②（責任実習・・・全 日）			
第 8 回：保育の観察、記録、自己評価			
第 9 回：保育士の専門性と職業倫理			
第 10 回：事後指導における実習の総括と自己評価①			
第 11 回：事後指導における実習の総括と自己評価②			
第 12 回：事後指導における実習の総括と自己評価③			
第 13 回：事後指導における実習の総括と自己評価④			
第 14 回：課題の明確化と保育観の確立			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	保育所保育指針（平成 29 年度告示） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成 29 年度告示） 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）		
参考書・参考資料等	内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布		
学生に対する評価	試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）の総合評価		

2025（令和 7 年度）

幼児教育科 教育課程シラバス

発行所 学校法人 愛国学園
愛国学園保育専門学校

〒133 - 8585

東京都江戸川区西小岩 5 - 7 - 1

TEL 03 - 3658 - 4113

FAX 03 - 5668 - 3131